

資 料 一 覧

- 次 第
- 第6回復興道路会議～福島県～ 配席図
- 復興道路会議～福島県～ 構成員
- 復興道路会議～福島県～ 規約
- 復興道路・復興支援道路の概要
- 復興道路・復興支援道路（福島県内の概要）
- 資料－1 復興道路・復興支援道路の各路線別進捗状況
- 資料－2 各事業区間の進捗状況
- 資料－3 復興道路・復興支援道路の「見える化」
【国土交通省の取り組み事例】
- 資料－4 事例発表【福島県】
- 資料－5 事例発表【東日本高速道路株式会社】
- 資料－6－1 事例発表【相馬市】
- 資料－6－2 事例発表【伊達市】
- 資料－6－3 事例発表【桑折町】
- 資料－6－4 事例発表【福島市】

第 6 回 復 興 道 路 会 議 ～福島県～

日 時：平成 2 8 年 6 月 1 4 日（火）

1 5 : 3 0 ~

場 所：杉妻会館 3 階 百合の間

議 事 次 第

1. 挨 拶

国土交通省 東北地方整備局 道路部長

福島県 土木部長

福島市長

2. 議 事

1) 復興道路・復興支援道路の今後の進め方
について

資料 1 ~ 3

2) 復興道路等を活かした地域振興支援策、
地域づくり事例の情報共有について

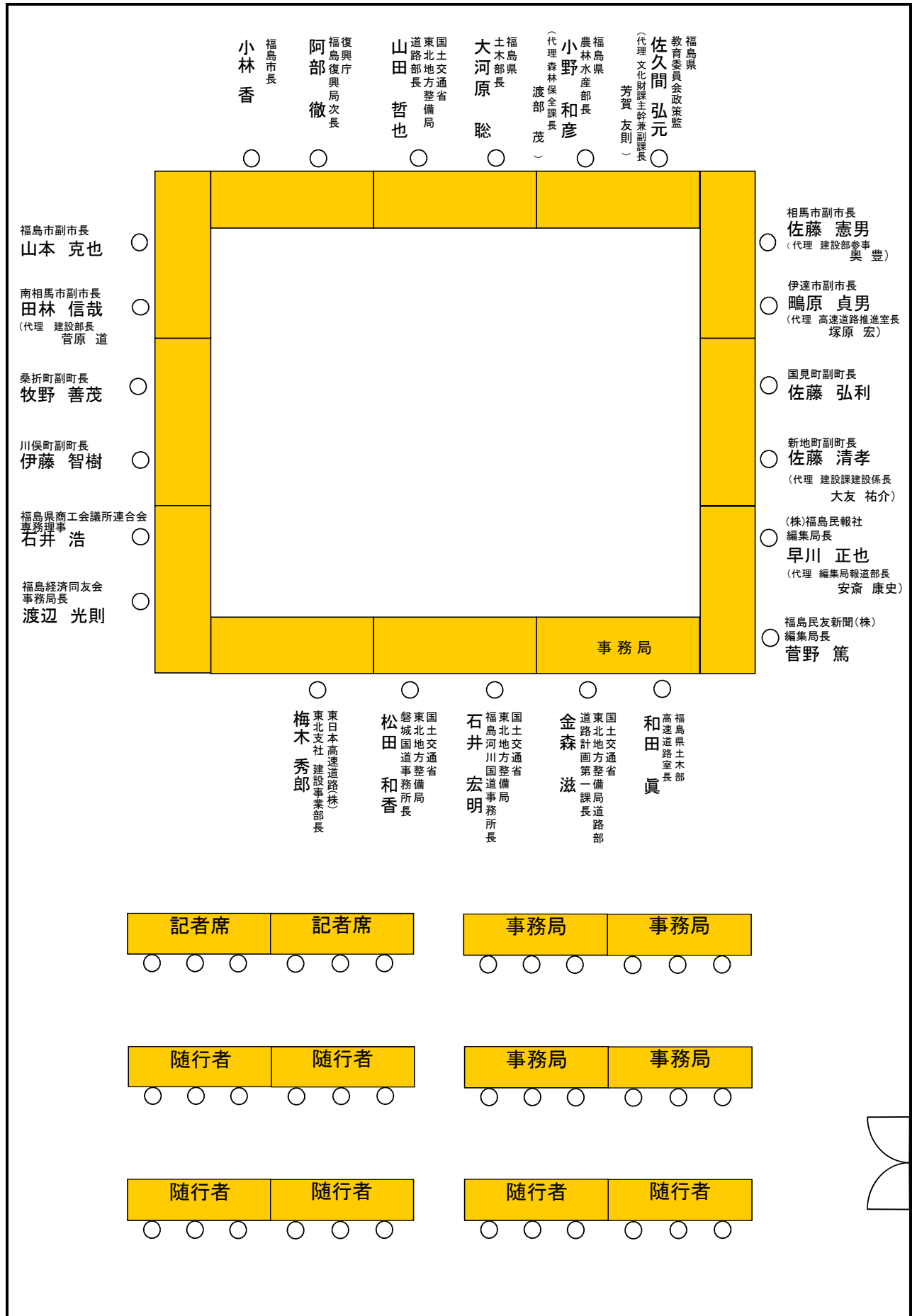
資料 4 ~ 6

3) その他

第6回復興道路会議～福島県～ 配席図

杉妻会館 3階 百合の間

平成28年6月14日(火) 15:30～



「復興道路会議～福島県～」

役 職 名	氏 名
福島県土木部長	大河原 聡
福島県農林水産部長	小野 和彦
福島県教育委員会 政策監	佐久間 弘元
福島市副市長	山本 克也
相馬市副市長	佐藤 憲男
南相馬市副市長	田林 信哉
伊達市副市長	嶋原 貞男
桑折町副町長	牧野 善茂
国見町副町長	佐藤 弘利
川俣町副町長	伊藤 智樹
新地町副町長	佐藤 清孝
飯舘村副村長	門馬 伸市
一般社団法人東北経済連合会 専務理事	大江 修
福島県商工会議所連合会 専務理事	石井 浩
福島経済同友会 事務局長	渡辺 光則
株式会社福島民報社 編集局長	早川 正也
福島民友新聞株式会社 編集局長	菅野 篤
東日本高速道路株式会社東北支社 建設事業部長	梅木 秀郎
復興庁 福島復興局次長	阿部 徹
国土交通省 東北地方整備局 道路部長	山田 哲也
国土交通省 東北地方整備局 福島河川国道事務所長	石井 宏明
国土交通省 東北地方整備局 磐城国道事務所長	松田 和香

敬称略

復興道路会議～福島県～ 規約

(名称)

第1条 本会議は、「復興道路会議～福島県～」と称する。

(目的)

第2条 本会議は、東日本大震災からの復興に向けたリーディングプロジェクトとなる復興道路等の早期完成を図るため、全ての関係者に対する事業進捗への合意形成と、国・県・市町村・関係機関の連携による課題解決を目的として開催する。

(協議事項)

第3条 本会議は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる連絡及び調整を行う。

- 一 事業の合意形成に関する事項
- 二 事業促進の課題解決に関する事項
- 三 その他本会の目的を達成するために必要な事項

(対象事業)

第4条 本会議で対象とする復興道路は、以下のとおりとする。

- 一 東北中央自動車道（相馬～福島）
- 二 その他

(組織)

第5条 本会議は、以下の構成員をもって組織する。

- 一 福島県、復興庁 福島復興局
国土交通省 東北地方整備局、東日本高速道路(株)東北支社
- 二 復興道路等の関係市町村
- 三 地域経済界及び報道関係代表

(事務局)

第6条 本会議の庶務は、福島県土木部及び国土交通省東北地方整備局道路部において処理する。

(雑則)

第7条 この規約に定めるもののほか、本会議の運営に関して必要な事項は会議において定める。

復興道路・復興支援道路の概要

H28.6.10現在

復興道路・復興支援道路の総延長608km
 [震災後新規区間247km(約4割)]



三陸沿岸道路 359 km
 [震災後新規区間 148 km]

宮古盛岡横断道路 (宮古～盛岡) 100km
 [震災後新規区間 48km]

東北横断自動車道釜石秋田線 (釜石～花巻) 80km
 [震災後新規区間 17km]

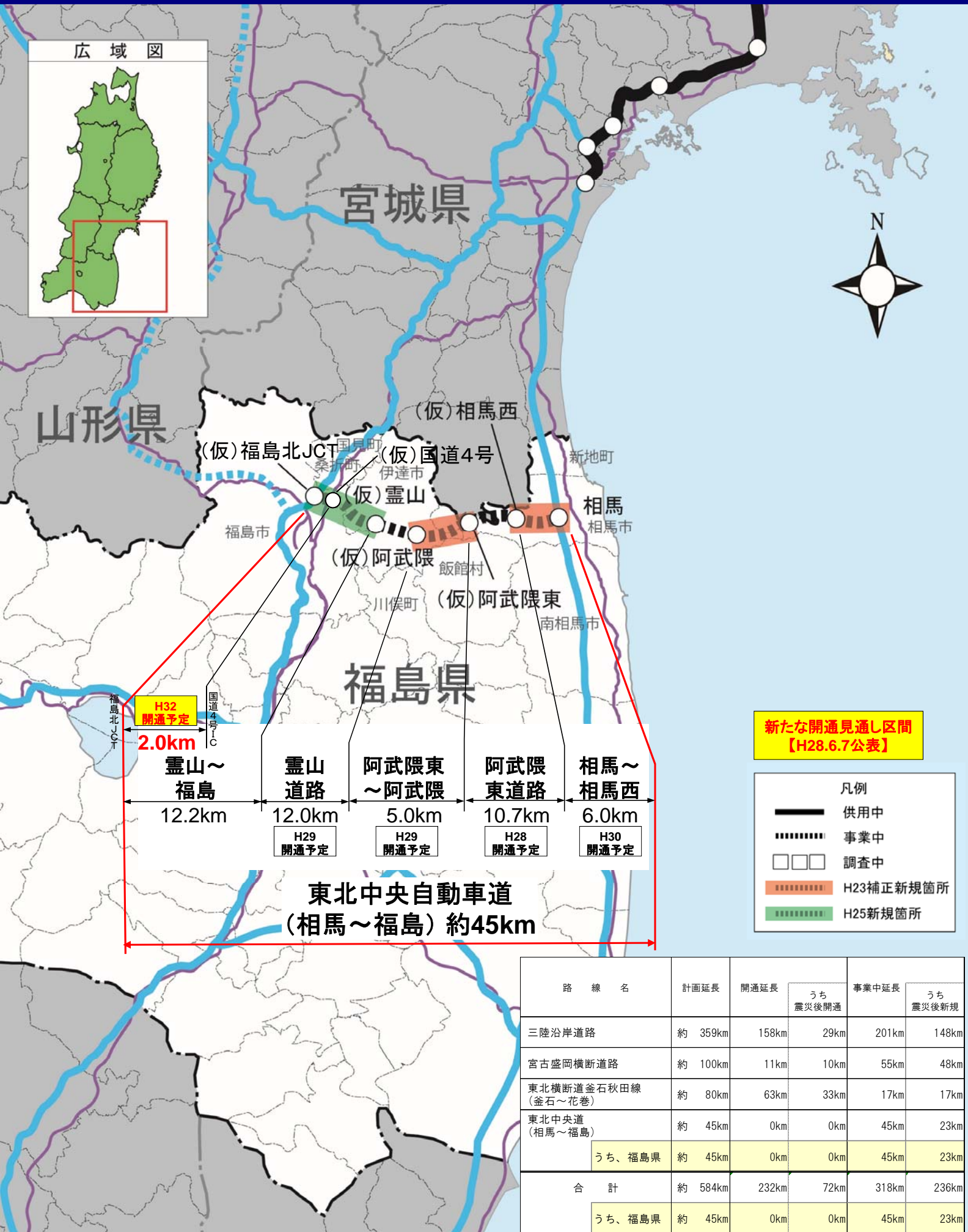
みやぎ県北高速幹線道路 24km
 [震災後新規区間 11km]
 (宮城県)

東北中央自動車道 (相馬～福島) 45km
 [震災後新規区間 23km]

路線名	計画延長	開通延長	事業中延長	
			うち震災後開通	うち震災後新規
三陸沿岸道路	約 359km	158km	29km	201km
宮古盛岡横断道路	約 100km	11km	10km	55km
東北横断自動車道釜石秋田線 (釜石～花巻)	約 80km	63km	33km	17km
東北中央道 (相馬～福島)	約 45km	0km	0km	45km
計	約 584km	232km	72km	318km
みやぎ県北高速幹線道路	約 24km	9km	9km	11km
合計	約 608km	241km	81km	329km

福島県内の概要

H28.6.10現在



新たな開通見通し区間
【H28.6.7公表】

- 凡例
- 供用中
 - 事業中
 - 調査中
 - H23補正新規箇所
 - H25新規箇所



路線名	計画延長	開通延長	開通延長の内訳		事業中延長の内訳	
			うち震災後開通	うち震災後新規	うち震災後開通	うち震災後新規
三陸沿岸道路	約 359km	158km	29km	148km	201km	148km
宮古盛岡横断道路	約 100km	11km	10km	1km	55km	48km
東北横断道釜石秋田線 (釜石～花巻)	約 80km	63km	33km	30km	17km	17km
東北中央道 (相馬～福島)	約 45km	0km	0km	0km	45km	23km
うち、福島県	約 45km	0km	0km	0km	45km	23km
合計	約 584km	232km	72km	160km	318km	236km
うち、福島県	約 45km	0km	0km	0km	45km	23km

復興道路・復興支援道路の各路線別進捗状況

《平成27年度の進捗状況》

- 復興道路・復興支援道路の**用地進捗率は約9割、主要構造物着手率は約7割まで進捗**
- 吉浜道路(3.6km)と登米志津川道路(2km)の開通により、**三陸沿岸道路の開通延長が6km延伸**
- 遠野～宮守(9km)と都南川目道路(2.6km)の開通により、**復興支援道路の開通延長が12km延伸**
- 三陸沿岸道路の**4車線化が8km延伸**(計画延長約52kmのうち、40km開通) 残る12kmは平成28年度開通予定

路線名	計画延長	開通延長 ※	事業中延長 ※	用地進捗率 ※1	工事着手率 ※2	主要構造物 着手率 ※3	主要構造物 完成率 ※4	トンネル掘削 進捗率 ※5	橋の上部工 着手率 ※6
				上段:H27.3.31現在					
三陸沿岸道路	約 359km	152km	207km	約90%	約95%	約70%	約35%	約35%	約45%
		158km	201km	約95%	100%	約80%	約40%	約70%	約60%
宮古盛岡横断道路	約 100km ※	8km	58km	約90%	約75%	約40%	約30%	約10%	約40%
		11km	55km	約99%	約85%	約60%	約35%	約20%	約45%
東北横断道釜石秋田線 (釜石～花巻)	約 80km	54km	26km	約95%	100%	約75%	約55%	約85%	約55%
		63km	17km	約99%	100%	約80%	約65%	約95%	約65%
東北中央道 (相馬～福島)	約 45km	0km	45km	約85%	約90%	約65%	約25%	約55%	約50%
		0km	45km	約94%	100%	約70%	約40%	約80%	約55%
合 計	約 584km	214km	336km	約90%	約95%	約65%	約35%	約35%	約45%
		232km	318km	約96%	約98%	約75%	約40%	約60%	約55%

※未事業化区間約34kmを含む

三陸沿岸道路(4車線化)	約 52km	32km	20km	100%	100%	100%	約90%	—	100%
		40km	12km	100%	100%	100%	100%	—	100%

【宮城県】 みやぎ県北高速幹線道路	約 24km	9km	11km	約85%	約80%	約70%	約65%	—	約65%
		9km	11km	約94%	100%	約70%	約65%	—	約65%

※ 開通延長、事業中延長は、平成28年6月10日時点

※1: 用地進捗率=取得済面積(ha)÷必要面積(ha)
 ※2: 工事着手率=工事に着手したIC開延長÷計画済延長
 ※3: 主要構造物着手率=(着手済+完成済構造物数)÷全構造物数
 ※4: 主要構造物完成率=完成済構造物数÷全構造物数
 ※5: トンネル掘削進捗率=トンネル掘削延長÷トンネル計画延長
 ※6: 橋の上部工着手率=(上部工着手済+完成済橋梁数)÷全橋梁数

【福島県】各事業区間の進捗状況

路線名	事業区間名	延長	開通予定	用地進捗率 (面積ベース) ※1	埋蔵文化財 調査完了率 ※2	保安林解除	事業進捗上の課題
				上段:H27.3.31現在 下段:H28.3.31現在			
東北中央自動車道(相馬～福島)							
	相馬西道路 (相馬～相馬西)	6.0km	H30年度	約99%	約40%	1箇所/1箇所申請済	・用地取得の推進
				約99%	100%	1箇所/1箇所解除済	
	阿武隈東道路	10.7km	H28年度	100%	100%	対象外	
				100%	100%		
	阿武隈東～阿武隈	5.0km	H29年度	約97%	100%	1箇所/1箇所解除済	
				100%	100%	1箇所/1箇所解除済	
	霊山道路	12.0km	H29年度	約99%	約90%	3箇所/3箇所解除済	
				100%	約90%	3箇所/3箇所解除済	
	霊山～福島	12.2km	一部 H32年度	約50%	0%	対象外	・用地取得の推進
				約79%	約45%		

※ 開通予定は、平成28年6月10日時点

※1: 用地進捗率=取得済面積(ha)/必要面積(ha)
 ※2: 埋蔵文化財調査完了率=本調査完了面積(ha)/調査対象面積(ha)

◆復興道路・復興支援道路の見える化(平成27年度)

○起工式、現場見学会、自治体での事業進捗等の見える化を紹介

◆復興道路・復興支援道路の見える化の取り組み

○住民参加による各種式典の開催

・式典への住民参加事例を紹介

○現場見学会における進捗状況の説明

・夏休みを活用した現場見学会、体験学習を併用した現場見学会を紹介

○市町村役場等における進捗状況発信

・市町村役場や道の駅、観光施設等において「モニター」「説明看板」や「かわら版」「HP」による情報発信を紹介

○地域とのコミュニケーションを重視した取り組み

・施工企業のCSR活動の見える化を紹介

◆市町村別における「見える化」の取り組み

○岩手県内

・市町村で実施する現場見学会や広報に掲載等の取り組みを紹介
・好事例を紹介

○宮城県内

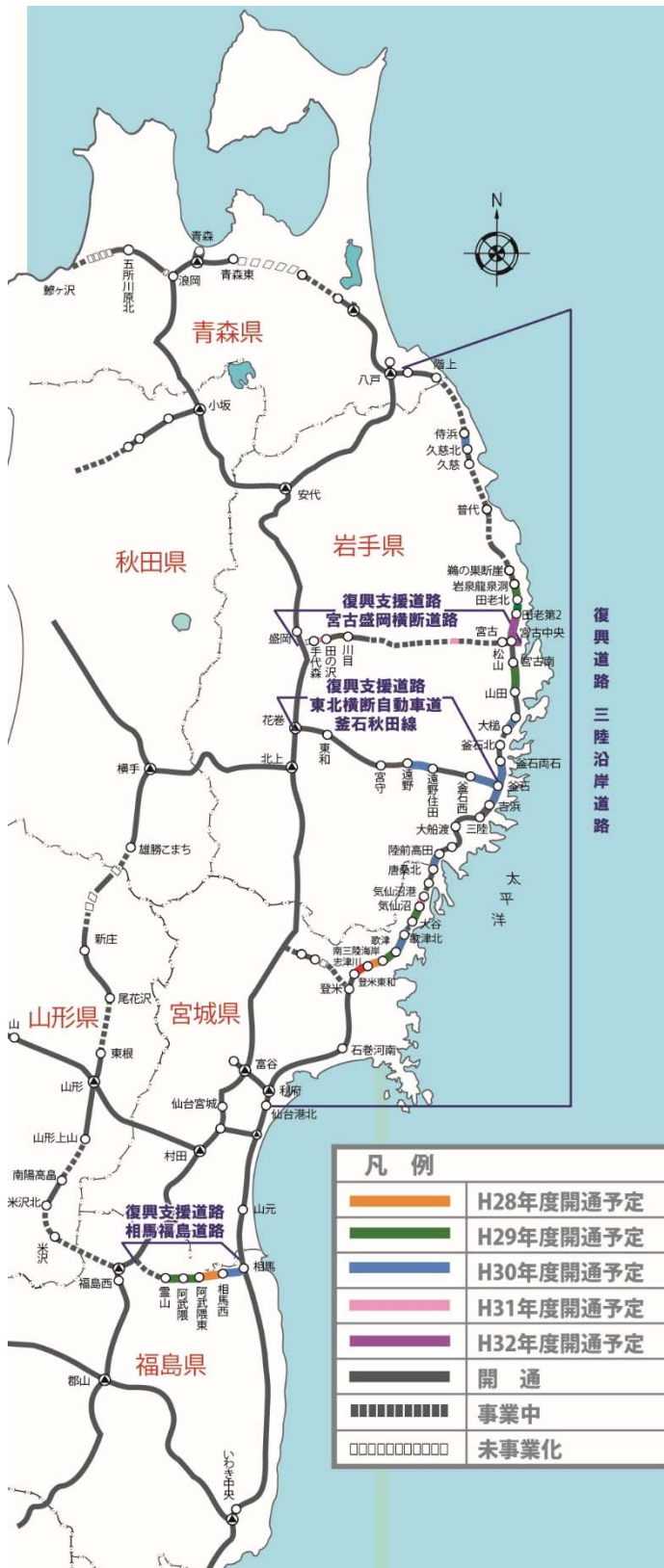
・市町村で実施する現場見学会や広報に掲載等の取り組みを紹介
・好事例を紹介

○福島県内

・市町村で実施する現場見学会や広報に掲載等の取り組みを紹介
・好事例を紹介

復興道路・復興支援道路の見える化(平成27年度)

～総延長584kmのうち230km開通済 177km新規開通見通し～



凡例	
	H28年度開通予定
	H29年度開通予定
	H30年度開通予定
	H31年度開通予定
	H32年度開通予定
	開通
	事業中
	未事業化

◇起工式・貫通式等

式典33回開催
新聞報道59回
テレビ放映50回



三陸沿岸道路 釜石山田道路
(岩手県大槌町) (H28年2月)

◇現場見学会等

79回開催
約3,070人参加
前年度
67回開催
約2,700人参加



三陸沿岸道路 気仙沼道路
(宮城県気仙沼市) (H27年8月)

◇市町村等での進捗状況等の発信

- ・市町村ロビー 25箇所
- ・道の駅等 26箇所
- ・現地看板 55箇所

合計106箇所で進捗状況等の発信を行った。

三陸沿岸道路 洋野階上道路
(岩手県九戸郡洋野町) (H27年10月)



◇HP等による情報発信

3.11 復興道路・復興支援道路情報サイト
復興道路
 このホームページは、「復興道路」「復興支援道路」の進捗状況や国民の皆様方にお伝えするために作成しているものです。
[復興道路トップページ](#) [復興道路の概要](#) [各県のお問合せ](#) [事業進捗状況](#) [開通目標](#) [リンク](#)

○事業区間の開通目標を更新しました (H28.4.21)

復興道路・復興支援道路の概要

下図の県名・市町村名・路線名をクリックすると詳細ページへ移動します。



●記者発表

- 平成28年
- 5月27日 **記者発表** 三陸沿岸道路(気仙沼道路)の概況について、記者発表を行いました。
- 5月19日 **記者発表** 復興道路(釜石山田道路)の概況について、記者発表を行いました。
- 5月12日 **記者発表** 復興道路(釜石山田道路)の概況について、記者発表を行いました。
- 5月9日 **記者発表** 復興道路(釜石山田道路)の概況について、記者発表を行いました。
- 4月25日 **記者発表** 復興道路(釜石山田道路)の概況について、記者発表を行いました。

●進捗に関する新規情報

- 5月27日 復興道路(釜石山田道路)の概況について、記者発表を行いました。
- 5月27日 復興道路(釜石山田道路)の概況について、記者発表を行いました。
- 5月27日 復興道路(釜石山田道路)の概況について、記者発表を行いました。
- 5月17日 復興道路(釜石山田道路)の概況について、記者発表を行いました。

●県別進捗状況

- 青森県
- 岩手県
- 宮城県
- 福島県

●路線別進捗状況

- 三陸沿岸道路(釜石山田道路)
- 宮古盛岡横断道路(釜石山田道路)

復興道路・復興支援道路の見える化の取り組み(1)

●住民参加による各種式典の開催

- ◆工事の節目に行う式典(安全祈願祭、連結式等)において住民参加の各種式典を開催。
- ◆工事の進捗状況について理解を深め、地域とのコミュニケーションを重視。

【宮古盛岡横断道路 ^{くざかい}区界道路】
新区界トンネル安全祈願祭《岩手県宮古市》
(H27.6.28)



▲岩手県内最長(約5,000m)となるトンネルの安全祈願祭に、地域の方々等を招き開催。

【相馬福島道路 ^{りょうぜん}霊山道路】
(仮称)犬飼大橋連結式 《福島県伊達市》
(H28.1.29)



▲地域の方々や地元の小学生等を招いて連結式を開催。

復興道路・復興支援道路の見える化の取り組み(2)

●現場見学会における進捗状況の説明

- ◆小中学生や地域の方々、土木を専門に学んでいる高校生・大学生、復興道路等の事業を支援していただいている団体や自治体等、様々な方々が現場見学会に参加。
- ◆夏休みを活用し親子で参加できる現場見学会の開催、体験学習を併用した現場見学会の開催等、工夫を凝らした現場見学会を開催。

【三陸沿岸道路 山田宮古道路】

地元の小学生による現場見学会
《岩手県下閉伊郡山田町》



▲(仮称)山田第2トンネルを見学(H27.11.26)

【三陸沿岸道路 気仙沼道路】

夏休みを利用した現場見学会《宮城県気仙沼市》



▲ボルトの締め付け体験(H27.8.5)

復興道路・復興支援道路の見える化の取り組み(3)

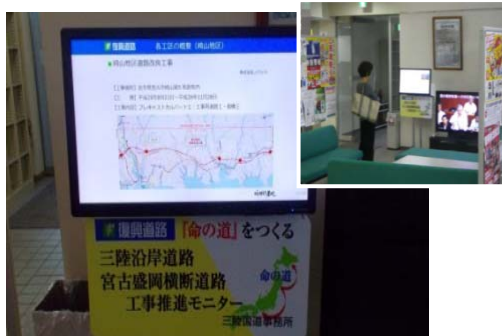
●市町村役場等における進捗状況発信

- ◆地域の方々が集まる市町村の役場・道の駅や観光客が集まる観光施設等においてモニター、かわら版、HP等を活用し、復興道路等の必要性や工事の進捗状況を発信。
- ◆地域の方々や道路利用者、観光客等を対象に進捗状況の見える化の取り組みを実施。

①復興道路等の沿線市町村ロビー等における情報提供の工夫



▲市役所のカウンター脇の小スペースを活用しモニターより情報を発信
(岩手県釜石市)



▲市役所の休憩スペースを活用しモニターより情報を発信
(岩手県宮古市)

③現場広報ポイントにおける説明看板の工夫



▲「吉浜釜石道路 荒川トンネル」では説明看板に三次元平面図を活用
(岩手県釜石市)



▲統一看板への開通目標の掲示(福島県相馬市)

②沿線道の駅等における情報提供の工夫



▲メイン通線の進捗状況を発信



▲道の駅「区界高原」における工事進捗状況の発信
(岩手県宮古市)



▲道の駅「南相馬」における工事進捗状況の発信
(福島県南相馬市)

④「かわら版」やHPによる情報発信



▲進捗状況をお知らせする「かわら版」



▲東北地方整備局の復興道路ポータルサイト(HP)

復興道路・復興支援道路の見える化の取り組み(4)

●地域とのコミュニケーションを重視した取り組み

- ◆次代を担う子供たちを含めた地域とのコミュニケーションをより重視して、施工企業のCSR活動とともに見える化の取り組みを実施。
 - ・三陸沿岸道路山田宮古道路では、ダンプトラック目線による「ヒヤリ・ハットMAP」を作成し小学校へ配布、卒業・入学おめでとう看板の設置、工事の進捗状況をお知らせするインフォメーションセンターの開設等を行い、地域とのコミュニケーションを深める取り組みを実施。
 - ・相馬福島道路相馬西道路では、地元の方々を招待し、現場見学会を実施。

【三陸沿岸道路 山田宮古道路】
山田宮古道路安全連絡協議会

【相馬福島道路 相馬西道路】
今田高架橋上部工工事 《福島県相馬市》



- ▲地域の皆様からの要望に応え、「ヒヤリ・ハットMAP」を作成し、小学校へも配布(H27.5)
- ▲卒業・入学おめでとう看板を設置(H27.3~4)



- ▲インフォメーションセンター開設(H27.8.5)



- ▲今田高架橋の桁架設状況を地元の方々が見学(H27.6.3)

- ▲常磐道交差部を一括架設

○ 市町村別における「見える化」の取り組み

【岩手県】

盛岡市	<ul style="list-style-type: none"> ・盛岡市ホームページで復興道路を紹介 ・築川福祉センター(築川支所)に宮古盛岡横断道路事業概要パネル及び新区界トンネル工事進捗パネルを設置
宮古市	<ul style="list-style-type: none"> ・市主催で地元住民等を対象とした復興道路等現場見学会の実施 ・川井総合事務所、新里総合事務所に宮古盛岡横断道路事業概要パネル及び新区界トンネル工事進捗パネルを設置 ・道の駅を主会場とした産業祭に事業紹介展示コーナーを確保 ・市広報紙で「震災復興5年の高規格幹線道路網整備状況」を特集掲載 ・市広報紙で工事進捗状況を掲載 ・市役所ロビーでの工事進捗情報提供モニター及び工事進捗チラシの設置 ・三陸国道事務所主催の事業進捗パネル展への協力
大船渡市	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所ロビーにモニターを設置し工事進捗状況をお知らせ(H25.1～継続) ・市役所ロビー吉浜地区拠点センター、道の駅「さんりく」で「工事状況のお知らせ」を配布 ・市広報で「三陸沿岸道路の進捗状況」を2頁、「吉浜道路」開通のお知らせを4頁にわたり特集掲載【事例1】
久慈市	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所・支所・公民館等での工事進捗チラシの設置、HPへの掲載。 ・市広報紙に工事進捗状況を掲載 ・久慈秋祭りにおける「北リアスみちづくり女性の会」と合同による道路整備促進啓発活動(チラシの配布)の実施
遠野市	<ul style="list-style-type: none"> ・「道の駅」遠野風の丘に事業進捗パネルを設置 ・市役所ロビー及び後方支援資料館に事業進捗パネル等を設置(H27.3～) ・地元住民を対象とした現場見学会に主催者として対応(バスの運行等)
陸前高田市	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所、各コミュニティーセンター、物産センター、一本松茶屋で「工事状況のお知らせ」を配布 ・「復興まちづくり情報館」に復興道路等の工事進捗をお知らせするモニター、パネルを設置 ・地域の女性を対象とした「現場見学会」を主催
釜石市	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所市民課及び各生活応援センターで「工事状況のお知らせ」を配布 ・鶴住居生活応援センターで「釜石山田道路かわら版」を掲示 ・市役所市民課に復興道路等の工事進捗をお知らせするモニターを設置(継続) ・道の駅「釜石仙人峠」内で「釜石道路かわら版」を掲示 ・地域の女性を対象とした「現場見学会」を主催
大槌町	<ul style="list-style-type: none"> ・大槌町役場、中央公民館、生井沢集會場に「かわら版」を掲示、配布 ・役場ロビー及びショッピングセンターに復興道路等の工事進捗をお知らせするモニターを設置 ・小学生とその保護者を対象とした「まちづくり現場見学会」を主催
山田町	<ul style="list-style-type: none"> ・役場及び町民ホールでの工事進捗チラシの設置 ・町民ホールでの工事進捗情報提供モニターの設置 ・町広報紙とともに工事進捗チラシの配布 ・町広報紙に工事進捗状況を掲載 ・観光協会ブログで工事進捗を発信【事例2】
岩泉町	<ul style="list-style-type: none"> ・役場での工事進捗チラシの設置 ・工事進捗チラシの施工業者との連名発行、町内回覧とともに工事進捗チラシの配布 ・町広報紙に工事進捗状況を掲載 ・現場見学会の調整
田野畑村	<ul style="list-style-type: none"> ・役場での工事進捗チラシの設置 ・田野畑牛乳フェアの際のパネル展開催 ・村広報紙に協議会における清掃活動や現場見学会記事などを掲載
普代村	<ul style="list-style-type: none"> ・役場での工事進捗チラシの設置 ・村広報紙に工事進捗状況を掲載 ・普代まると元気市の際のパネル展開催
野田村	<ul style="list-style-type: none"> ・役場内電子掲示板での工事進捗状況の提供 ・地区回覧とともに工事進捗チラシの配布 ・村広報紙に工事進捗状況を掲載
洋野町	<ul style="list-style-type: none"> ・町役場ロビーでのパネルの展示、整備促進懸垂幕の設置 ・村内イベント(文化祭等)の際のパネル展開催 ・役場等での工事進捗チラシの設置

【岩手県】

【事例1】 広報誌にて進捗状況を発信(大船渡市)

吉浜道路完成予想イメージ

三陸沿岸道路
東日本大震災からの道路復興に向け、復興道路として三陸沿岸道路の整備が進められています。その一部である「吉浜道路」は、吉浜ICから吉浜ICまでの約1.4kmの区間を、平成27年度中に完成させる予定です。

吉浜道路
吉浜道路は、三陸ICから吉浜ICまでの約3.6kmの区間に、2つの高架橋と1本のトンネルがあります。吉浜ICは、吉浜ICから吉浜ICまでの約1.4kmの区間に、2つの高架橋と1本のトンネルがあります。

三陸沿岸道路
三陸沿岸道路は、三陸ICから吉浜ICまでの約3.6kmの区間に、2つの高架橋と1本のトンネルがあります。吉浜ICは、吉浜ICから吉浜ICまでの約1.4kmの区間に、2つの高架橋と1本のトンネルがあります。

吉浜道路について詳しく紹介します

▽大船渡方面への連絡
三陸道路は現在の国道46号の下を通過します。三陸道路から三陸ICの交差点まで、三陸道路の下を通過します。三陸ICの交差点から三陸ICの交差点まで、三陸道路の下を通過します。

▽三陸ICの交差点から三陸ICの交差点まで
三陸ICの交差点から三陸ICの交差点まで、三陸道路の下を通過します。三陸ICの交差点から三陸ICの交差点まで、三陸道路の下を通過します。

道の駅さんりく
現在、ついで出入り口の入り口は、道の駅さんりくから三陸ICの交差点まで、三陸道路の下を通過します。三陸ICの交差点から三陸ICの交差点まで、三陸道路の下を通過します。

お問い合わせ先
▽お問い合わせ先
岩手県建設部 建設課 三陸道路対策室
〒985-0801 大船渡市 大船渡 1-1-1
TEL 0193-47731
FAX 0193-47732

三陸沿岸道路の進捗よく状況をお知らせします

東日本大震災からの道路復興に向け、復興道路として三陸沿岸道路の整備が進められています。その一部である「吉浜道路」は、吉浜ICから吉浜ICまでの約1.4kmの区間を、平成27年度中に完成させる予定です。

三陸沿岸道路
三陸沿岸道路は、三陸ICから吉浜ICまでの約3.6kmの区間に、2つの高架橋と1本のトンネルがあります。吉浜ICは、吉浜ICから吉浜ICまでの約1.4kmの区間に、2つの高架橋と1本のトンネルがあります。

吉浜道路
吉浜道路は、三陸ICから吉浜ICまでの約3.6kmの区間に、2つの高架橋と1本のトンネルがあります。吉浜ICは、吉浜ICから吉浜ICまでの約1.4kmの区間に、2つの高架橋と1本のトンネルがあります。

吉浜道路について詳しく紹介します

▽大船渡方面への連絡
三陸道路は現在の国道46号の下を通過します。三陸道路から三陸ICの交差点まで、三陸道路の下を通過します。三陸ICの交差点から三陸ICの交差点まで、三陸道路の下を通過します。

▽三陸ICの交差点から三陸ICの交差点まで
三陸ICの交差点から三陸ICの交差点まで、三陸道路の下を通過します。三陸ICの交差点から三陸ICの交差点まで、三陸道路の下を通過します。

道の駅さんりく
現在、ついで出入り口の入り口は、道の駅さんりくから三陸ICの交差点まで、三陸道路の下を通過します。三陸ICの交差点から三陸ICの交差点まで、三陸道路の下を通過します。

お問い合わせ先
▽お問い合わせ先
岩手県建設部 建設課 三陸道路対策室
〒985-0801 大船渡市 大船渡 1-1-1
TEL 0193-47731
FAX 0193-47732

【事例2】 観光協会ブログで工事進捗を発信(山田町)

【ブログのTOPへ】

山田町観光協会 公式ブログ vol.2

山田とことこ日記

岩手県のリアス式で有名な三陸海岸のど真ん中「山田町」にある山田町観光協会の公式ブログ(vol.2)です。山田の観光情報、おすすめスポット、旬の話題、復興状況など発信してまいりますのでよろしくお願ひします！

検索ボックス

実際、現場での作業は9月から始まったのですが、それまでは茨城県の手取市にある工場、橋桁の製作を行っていました。工場で作った橋桁は、大きなトレーラーに乗せて現場まで運んできたそうです。

150 t クレーンによる桁架設作業の様子をコマ送りで。

グイイグイ

鉄板の左右に結ばれたロープで揺れを調節しています。桁と桁は「高力ボルト」というネジで連結されます。豊間根川橋では「高力ボルト」を1万8千本使うそうですよ。

○ 市町村別における「見える化」の取り組み

【宮城県】

石巻市	<ul style="list-style-type: none"> ・市政教室において市民を対象に三陸道の現場見学会を実施し、見識を深めて頂いた。 ・市の総合防災訓練において矢本石巻道路の避難階段を利用した訓練を実施。
塩竈市	<ul style="list-style-type: none"> ・市広報誌で復興特集を毎月掲載 ・平成25年9月より、市役所ロビーに復興情報コーナーを設置 ・宮城県と塩竈市が連携し、市内大型商業施設に復興情報コーナーを設置【事例1】
気仙沼市	<ul style="list-style-type: none"> ・「海の市」に気仙沼湾横断橋の模型を展示 ・「海の市」において復興道路等の工事進捗を知らせるパネルを展示
登米市	<ul style="list-style-type: none"> ・迫総合支所において復興道路等の工事進捗を知らせるパネルを展示
南三陸町	<ul style="list-style-type: none"> ・さんさん商店街において復興道路等の工事進捗を知らせるパネルを展示 ・町広報紙にて整備状況を周知
東松島市	<ul style="list-style-type: none"> ・市の総合防災訓練において矢本石巻道路の避難階段を利用した訓練を実施。【事例2】

【宮城県】

【事例1】 市内大型商業施設に復興情報コーナーを設置(塩竈市)



【事例2】 防災訓練にて矢本石巻道路の避難階段を利用した訓練を実施(東松島市)



○ 市町村別における「見える化」の取り組み

【福島県】

福島市	<ul style="list-style-type: none"> ・福島市ホームページで復興道路を紹介 ・市役所展望ロビー等2箇所において、復興支援道路の事業概要・工事進捗をお知らせするパネルを設置
相馬市	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページや広報誌「広報そうま」に事業進捗状況等を掲載(H27継続)【事例1】 ・市役所ロビーにおいて復興道路工事の進捗状況を掲載(H27継続) ・地域住民に進捗状況を周知するために復興道路の現場見学会を開催
南相馬市	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所ロビーにおいて復興道路工事の進捗状況を掲載(H27継続)
伊達市	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌「だて市政だより」による事業概要・工事進捗等の情報提供 ・市役所及び支所等5箇所において、復興支援道路の事業概要・工事進捗をお知らせするパネルを設置 ・市内各小・中学校27校に工事状況ポスターを掲示 ・地域及び沿線団体に現場の進捗状況を周知するために、窓口を設け、積極的に現場見学会を募集した
桑折町	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌「広報こおり」に復興道路の記事を掲載。【事例2】 ・役場において、復興支援道路の事業概要・工事進捗をお知らせするパネルを設置 ・桑折町ホームページのトップに復興道路・事業促進PPPのバナーを設定し紹介
国見町	<ul style="list-style-type: none"> ・国見町ホームページに復興道路紹介ホームページをリンク
新地町	<ul style="list-style-type: none"> ・町役場ロビーにおいて復興道路工事の進捗状況を掲載(H27継続)

【福島県】

【事例1】 ホームページで事業進捗状況等を紹介(相馬市)

【区間概要】

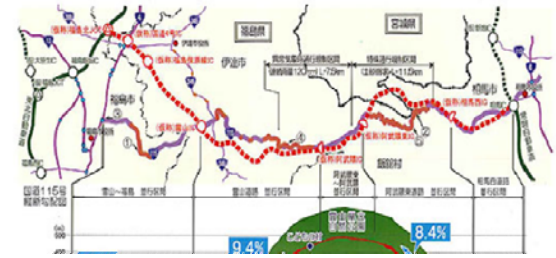
区間	住所	延長	備考
相馬西道路	相馬市山上～相馬市山上	6.0km	平成30年度開通予定
阿武隈東道路	相馬市山上～相馬市東玉野	10.7km	平成28年度開通予定
阿武隈東～阿武隈	相馬市東玉野～伊達市蓋山町石田	5.0km	平成29年度開通予定
蓋山道路	伊達市蓋山町石田～伊達市蓋山町下小国	12.0km	平成29年度開通予定
蓋山～福島	伊達市蓋山町下小国～桑折町松原	約11km	平成28年度事業着手

相馬福島道路 延長約45km

概要図はこちら(PDF 1.19MB) >>

一般国道115号(相馬～福島間)の現状

国道115号(相馬～福島間)は、相馬～福島間を結ぶ重要な路線です。しかし、多数の線形不良箇所や事前通行規制区間等があり、信頼性や速達性において問題があります。平成10年には大雨による落石で約1ヶ月間の全面通行止めが発生し、物流、生活、観光等、多方面に大きな影響が出ました。一方で、東日本大震災では緊急輸送道路として利用される等、防災面においても重要な位置付けにあります。



■国土交通省東北地方整備局福島河川国道事務所では、相馬福島道路(蓋山～福島)の事業促進を図るため、平成26年度から事業促進PPP(Public Private Partnership)制度を導入しております。

事業促進PPP (蓋山～福島)

復興支援道路

【構造規格】

- ▽道路規格: 第1種第3級
- ▽車線数: 2車線
- ▽設計速度: V=60km/h

【区間概要】

【事例2】 広報誌に復興道路の記事を掲載(桑折町)

県北と相馬をつなぐ復興支援道路

桑折高架橋が着工

「21世紀の道分」完成に向けて動き出す

建設位置
蓋山IC-福島北JCT(いずれも仮称)
隣の桑折町大字成田字栗向田内

構造設計概要
全長1218.6m(国道約45%の中で最長)、高さ約30m、片側1車線で幅員12m。一部区間は東北新幹線と東北線の上部をまたいで建設

開通目標時期
工事状況を見極めた上で決定

相馬～福島をつなぐ「命の道」東日本大震災からの力強い復興に貢献

桑折町
町長 高橋宣博

国土交通省東北地方整備局
局長 川藤弘之

新たな交通の要衝となる桑折高架橋の存在は、県民が復興を実感できる象徴。まさに「21世紀の道分」の誕生であり、1日も早い完成を切望しています。

相馬福島道路は浜通りと直結し、米沢や秋田までつながる。東北全体でも非常に重要な路線となります。事故なく安全・安心な工事に努めていただきたいと思います。

3 | 広報こおり 平成28年6月号

広報こおり 平成28年6月号 | 2

相馬福島道路を活かして ～復興に向けた取り組み～



平成28年6月14日
福島県

- 福島県の沿岸市町村では、東日本大震災および原子力災害により、未だ9万人を超える県民が県内外に避難している。
- 県外避難者では、関東地方をはじめ、新潟県や山形県など日本海側の隣接県への避難者が多い。このことから、相双地方から日本海側を結ぶ連携が不可欠となり、地域コミュニティの維持にも相馬福島道路が果たす役割が大きいものとなる。
- 県内各地で復興公営住宅の整備が進められており、その整備に遅れることなく、沿岸部と内陸部の道路網を強化して、被災者支援を行うことが重要となる。

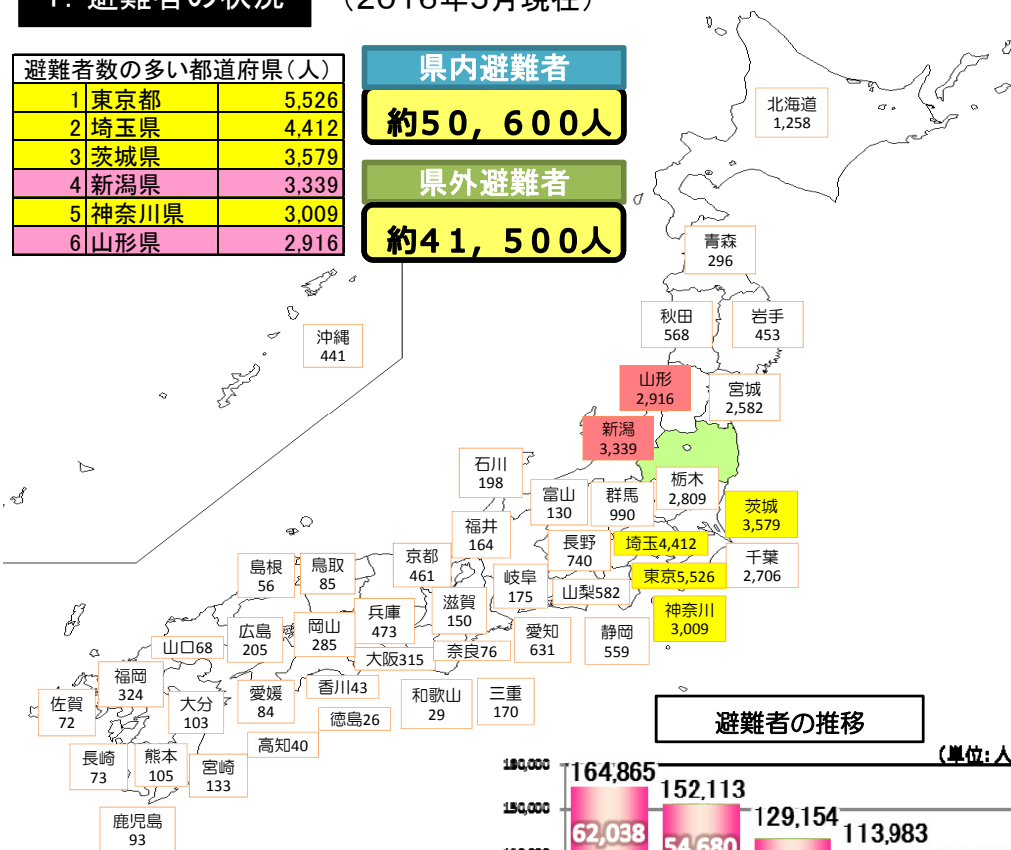
1. 避難者の状況

(2016年5月現在)

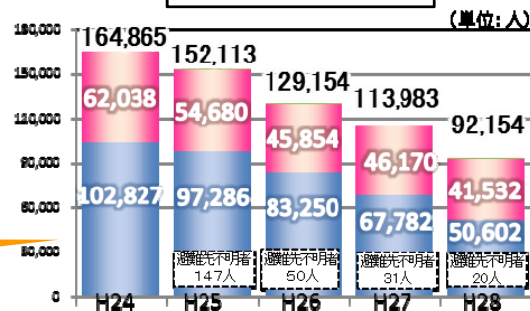
1	東京都	5,526
2	埼玉県	4,412
3	茨城県	3,579
4	新潟県	3,339
5	神奈川県	3,009
6	山形県	2,916

県内避難者
約50,600人

県外避難者
約41,500人



避難者の推移



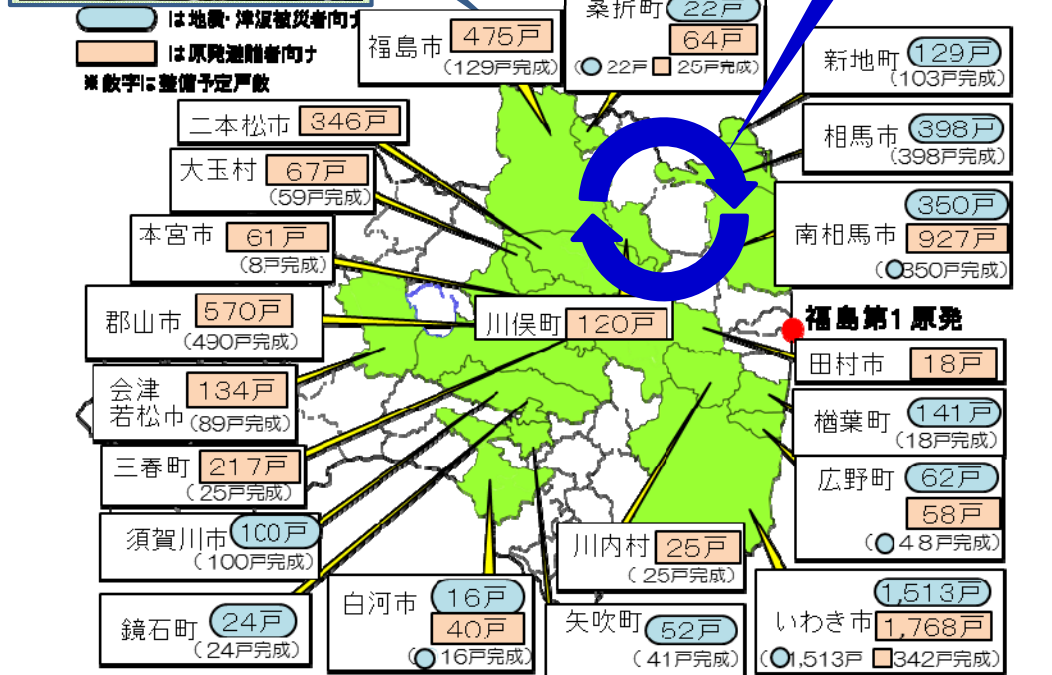
避難者数は減少しているが、未だに多くの方が県内外に避難している。

2. 復興公営住宅の整備状況

<復興公営住宅等の整備状況>

区分	整備予定	完成戸数
地震・津波被災者向け	11市町で計2,807戸を整備予定。	2,633戸
原発避難者向け	県が主体となり、全体で4,890戸整備予定。	1,192戸

(平成28年4月30日現在)



- 松川浦漁港では、試験操業対象種が増加し、水揚げされた水産物は中通り方面にも出荷され、道路網の強化により水産物の鮮度向上に繋がるなど、漁業再興にも寄与することが期待されている。
- 相馬福島道路の整備により、道路網が強化され、円滑な物流を確保することにより、県北地域・相双地域への更なる企業の立地促進が期待される。
- 重要港湾の相馬港を活用した大量輸送が可能となり、輸送コストの低減が図られ、県北地域や山形県南地域など背後圏内の企業活動の活性化が期待される。

1. 水産関連施設等の復旧

＜沿岸漁業の試験操業＞

平成24年6月下旬から放射性物質の値が低い海域・魚種の試験的な操業・販売を開始。試験操業の業種が増加するなど、着実に再興に向かっていく。

対象魚種	平成24年6月	平成28年3月
	3種類	73種類

規模拡大中



○相馬福島道路の開通により...

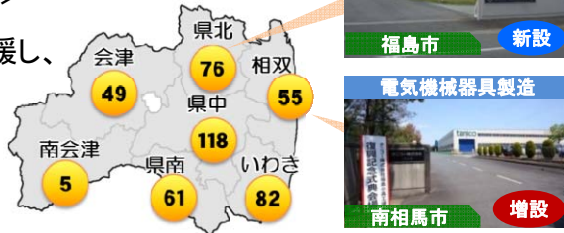
- ・トラックでの輸送範囲が広がり、福島県内陸部や山形県、関東方面など販路の拡大が期待される。
- ・本操業への移行時の出荷状況に与える影響が大きく、本格的な再開に強力な後押しとなる。

2. 企業誘致の促進

＜ふくしま産業復興企業立地支援事業＞

工場等を新設又は増設する企業を支援し、生産規模の拡大と雇用を創出。

県北地域・・・76件
相双地域・・・55件



- ・企業誘致にあたり、交通網の充実は大きな武器となり、幅員狭小部や急勾配、屈曲部の解消など、現道部の課題が解決され、大量輸送が可能となる。
- ・相馬福島道路の整備により、相馬～福島～米沢での誘致の幅が広がる。
- ・通行料が無料であることも大きなPRポイントに繋がる。

3. イノベーションコースト構想

- ◆震災、原発事故によって失われた浜通りの産業・雇用を回復するため、廃炉やロボット技術に関連する研究開発、エネルギー関連産業の集積、先端技術を活用した農林水産業の再生、未来を担う人材の育成強化などを通じて新たな産業・雇用を創出し、住民が安心して帰還し、働けるよう、浜通りの再生に取り組むもの。

国際産学連携
国際産学連携拠点 (H28年度以降事業化)
国際産学官共同研究室、大学教育、技術者研修、情報発信(アーカイブ)
放射性物質分析・研究施設 (大熊町)
燃料デブリ等の性状把握、処理技術開発 (H29年度運用開始)
JAEA
廃炉国際共同研究センター (富岡町)
国内外の大学、研究機関、企業等が集結、廃炉研究と人材を育成 (H29年度中運用開始)
植葉遠隔技術開発センター (楡葉町)
原子炉格納容器の調査・補修用ロボット等の開発・実証試験 (H27年度運用開始)

ロボット開発・実証
ロボットテストフィールド (H28年度以降事業化)
災害対応ロボットの実証拠点
福島浜通りロボット実証区域 (南相馬市 H27年8月～)
「ロボットテストフィールド」整備に向けた具体策の一つとして、国・県が共同実施
廃炉・災害対応用ロボットの開発促進
医療福祉・農業分野でのロボット開発支援

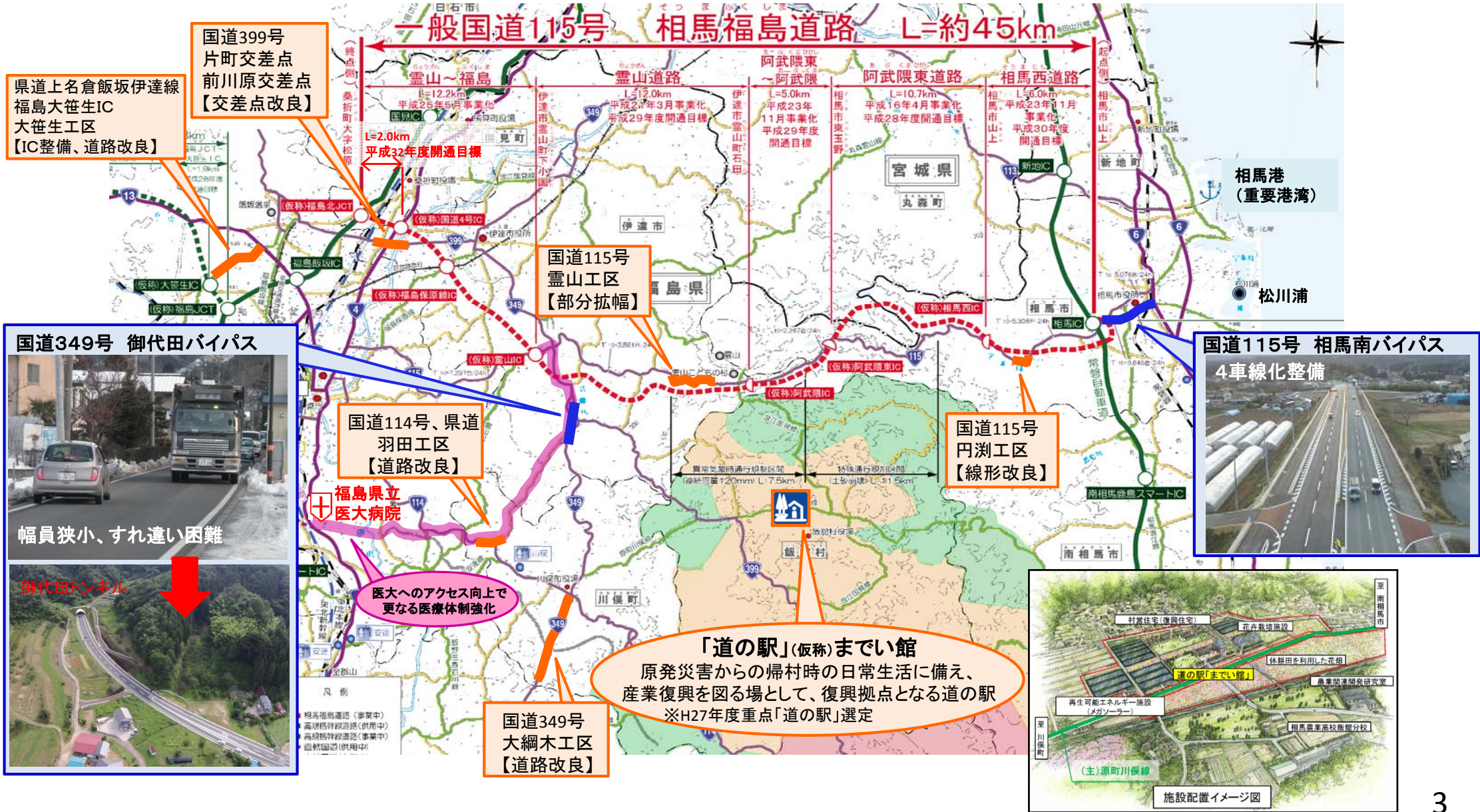
新たな産業集積
エネルギー関連産業プロジェクト
高効率石炭火力発電、LNG基地、洋上風力等の関連産業集積等
農林水産分野イノベーションプロジェクト
スマート農業、CLT、水産研究施設の強化、作業支援ロボット技術導入等
スマート・エコパーク (H28年度以降事業化)
新たなリサイクル事業の創出、環境・リサイクル産業の集積等

- ・浜通りを縦断する『常磐自動車道』と内陸部を結ぶ『相馬福島道路』が一体となることにより、構想実現に向けて大きな追い風となる。
- ・浜通りと内陸部の円滑な連携や流通が確保されることにより、安定した産業形態が構築され、規模拡大が期待される。

相互に連携

【政策③】相馬福島道路と連携した道路ネットワーク強化

- 『相馬福島道路』の周辺道路の要対策箇所(幅員狭小、混雑等)について、道路改良等を実施し、アクセス性向上を図る。
- 復興拠点となる「道の駅」や第3次医療施設と『相馬福島道路』とのアクセス性を向上させ、復興の支援や医療サービスの向上に寄与する。



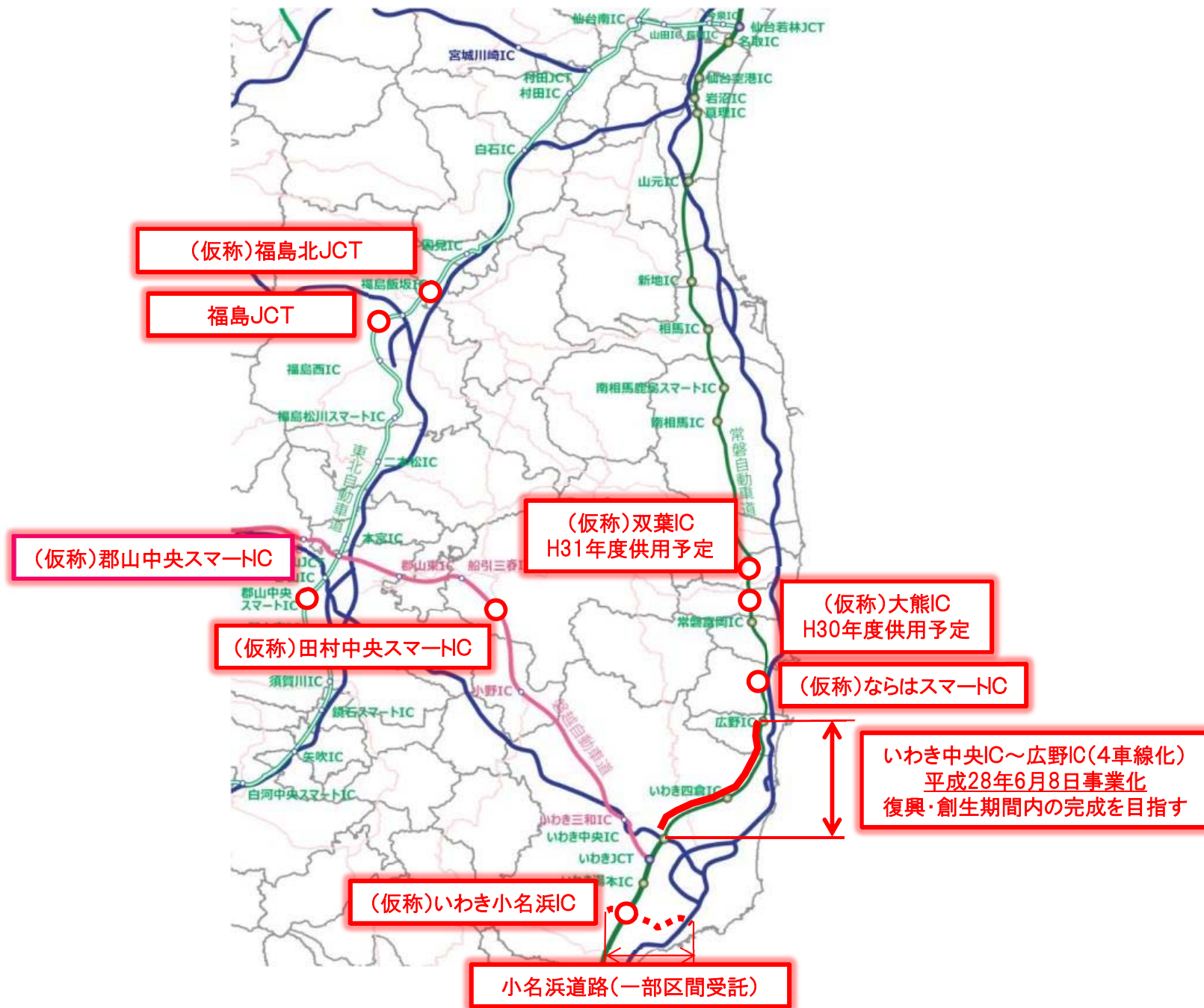
常磐自動車道の整備効果・事業状況

平成28年6月14日

東北支社 建設事業部

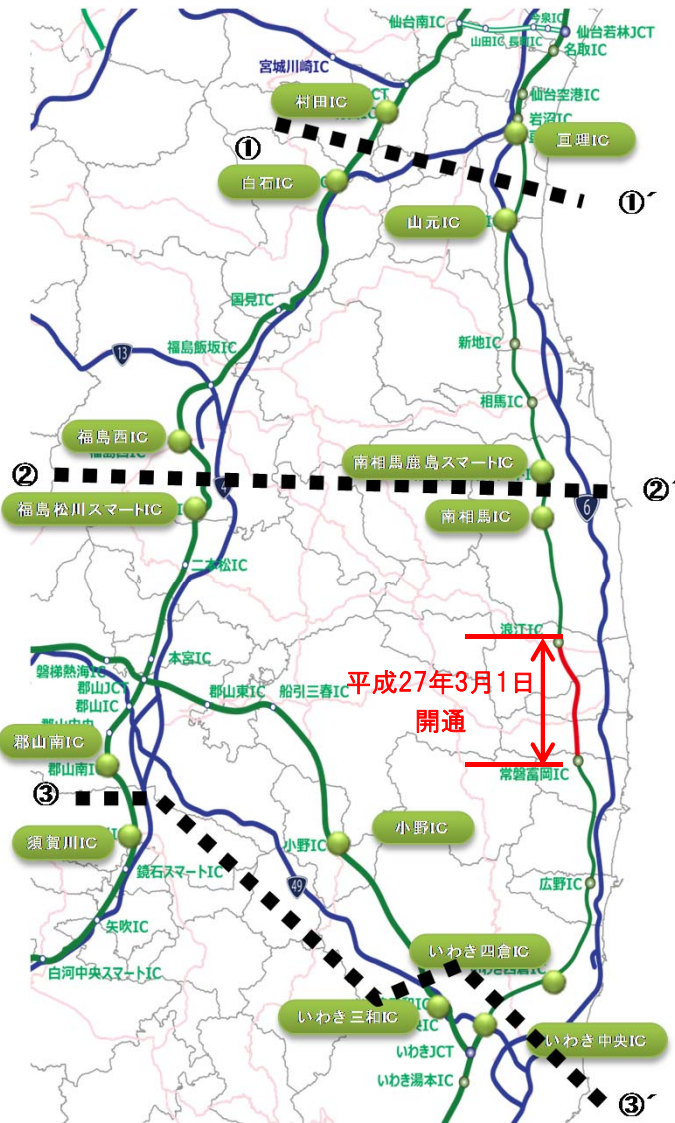


1. 福島県内における事業箇所

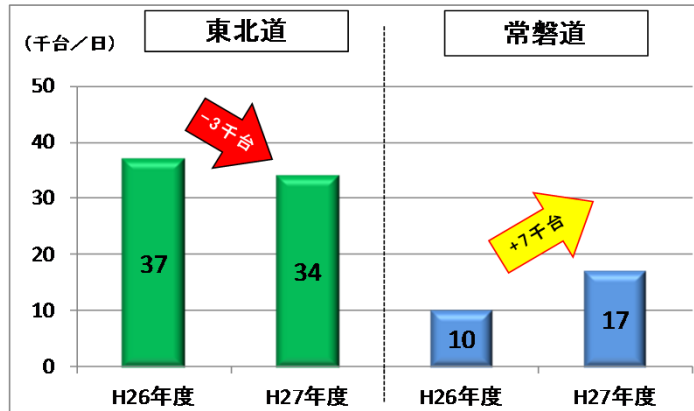


2. 常磐自動車道開通に伴う交通状況

■ 常磐道全線開通後の平成27年度の交通量は、前年度と比べ、東北道が減少(約1~4千台)、常磐道が増加(約6~7千台)

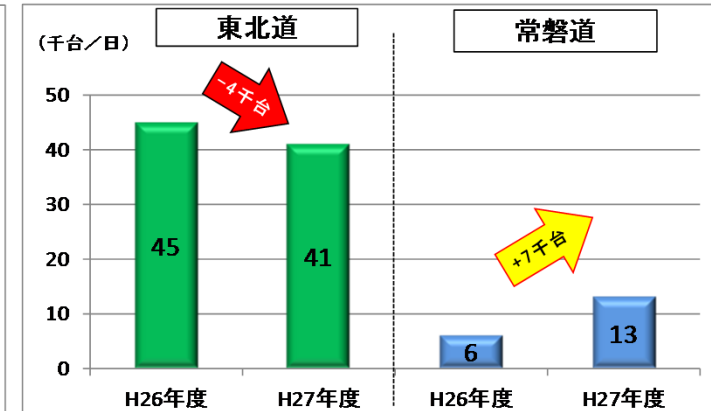


①-①' 断面



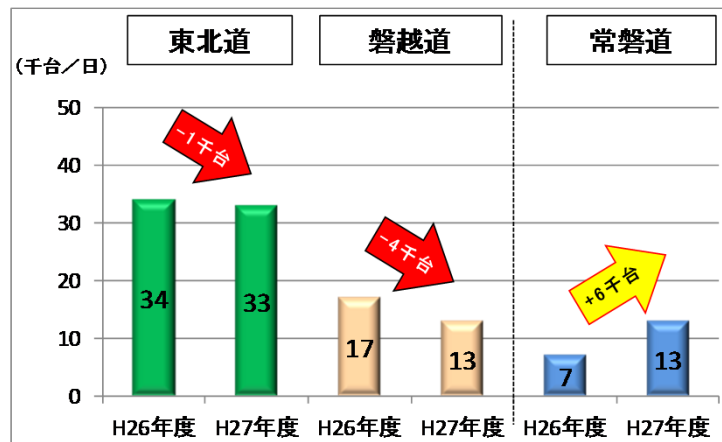
-東北道: 村田IC~白石IC間
-常磐道: 亘理IC~山元IC間

②-②' 断面



-東北道: 福島西IC~福島松川スマートIC間
-常磐道: 南相馬鹿島スマートIC~南相馬IC間

③-③' 断面



-東北道: 郡山南IC~須賀川IC間
-磐越道: 小野IC~いわき三和IC間
-常磐道: いわき四倉IC~いわき中央IC間

【出典: NEXCO東日本データ】

・H26年度: 平成26年度の日平均値
・H27年度: 平成27年度の日平均値

3. 常磐自動車道全線開通後の整備効果(全線開通6ヶ月後)①

～ 福島・宮城沿岸地域の観光交流人口が震災以降最高を記録 ～

- 常磐道沿線の福島県・宮城県的主要観光地(都市)では、観光入込客数が、震災以降最高を記録
- 常磐道沿線の主要観光地では、常磐道を利用した県外からの来訪者が増加するとともに、観光消費額も25億円増加し、経済活性化に寄与

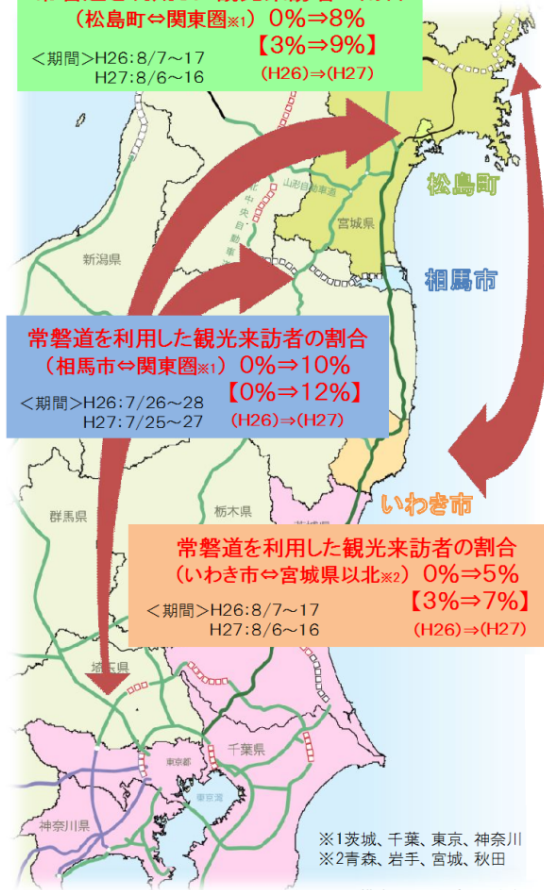
常磐道を利用した来訪者の変化

【 】: 経路を加味しない場合の割合

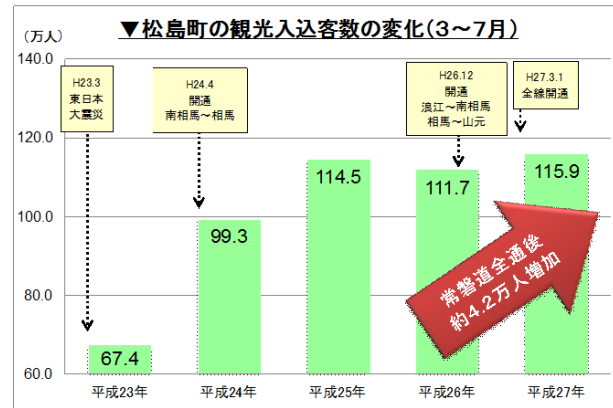
常磐道を利用した観光来訪者の割合
(松島町⇄関東圏※1) 0%⇒8%
【3%⇒9%】
<期間>H26:8/7~17 (H26)⇒(H27)
H27:8/6~16

常磐道を利用した観光来訪者の割合
(相馬市⇄関東圏※1) 0%⇒10%
【0%⇒12%】
<期間>H26:7/26~28 (H26)⇒(H27)
H27:7/25~27

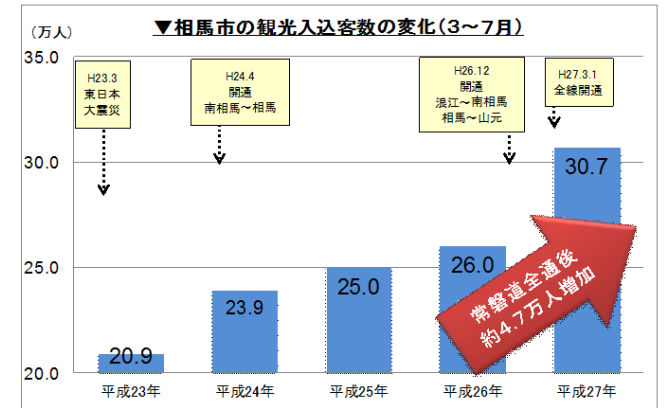
常磐道を利用した観光来訪者の割合
(いわき市⇄宮城県以北※2) 0%⇒5%
【3%⇒7%】
<期間>H26:8/7~17 (H26)⇒(H27)
H27:8/6~16



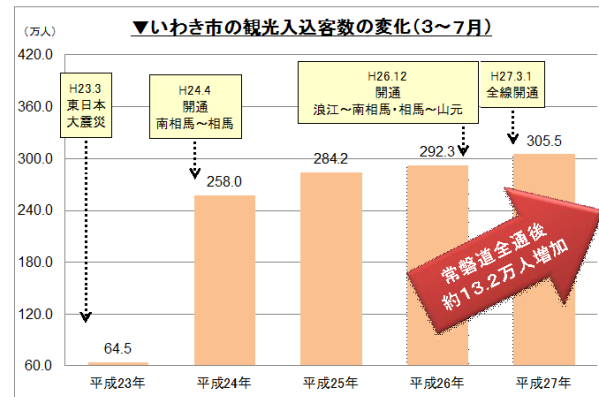
松島町の観光入込客数が4.2万人増加



相馬市の観光入込客数が4.7万人増加



いわき市の観光入込客数が13.2万人増加



3地域の観光来場者が約22万人増加

入場料・食事・お土産などの
観光消費額が約25億円増加

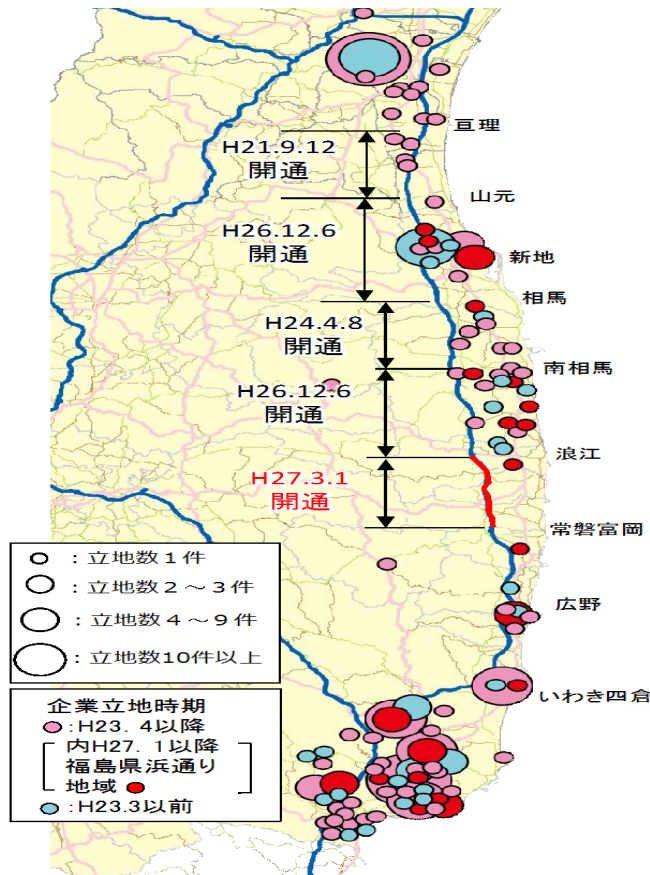
3. 常磐自動車道全線開通後の整備効果(全線開通6ヶ月後)②



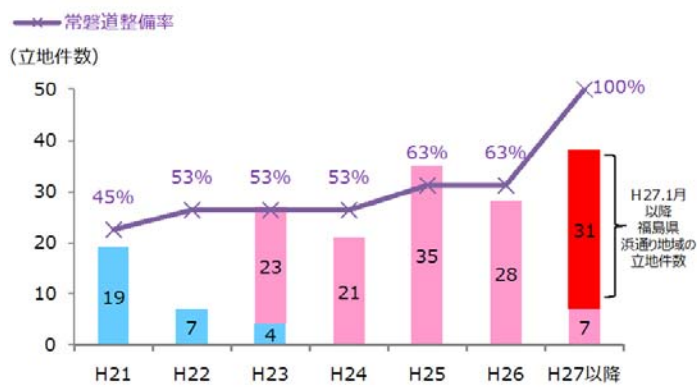
～ 福島県浜通り地方への企業立地増加・雇用拡大 ～

- 現時点(H27.6)で、沿岸地域の企業立地数は、過去最高を記録
- 平成27年1月以降の福島県浜通り地域の企業立地による経済効果は約550億円
- 浜通り地域における新規高等学校卒業者求人倍率は、企業立地とともに着実に増加、地域雇用確保に貢献
- 浜通り地域の企業立地が地域の経済を牽引

▼常磐道沿線地域での工場増新設の動き



▼常磐道沿線地域の工場増新設件数の推移

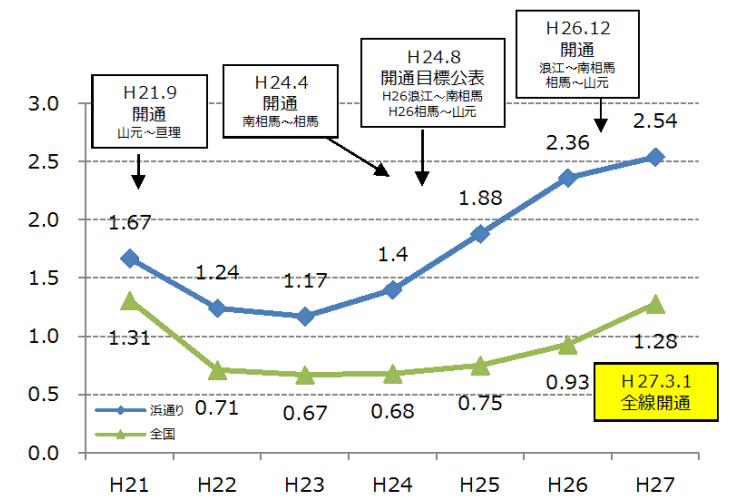


常磐道沿線地域：いわき市、南相馬市、相馬市、新地町、飯舘村、
 広野町、楢葉町、富岡町、川内村、大熊町、
 双葉町、浪江町、葛尾村、名取市、岩沼市、
 亘理町、山元町

平成27年1月以降の
 福島県浜通り地域の企業立地31件による
 経済効果は約550億円

※福島県内の立地企業(福島県調べ)の投資額(予定額も含む)を基に算出

▼浜通り地域における新規高等学校卒業者求人倍率



資料：厚生労働省福島労働局・厚生労働省
 浜通り地域：いわき市、南相馬市、相馬市、新地町、飯舘村、広野町、楢葉町、富岡町、川内村、大熊町、
 双葉町、浪江町、葛尾村

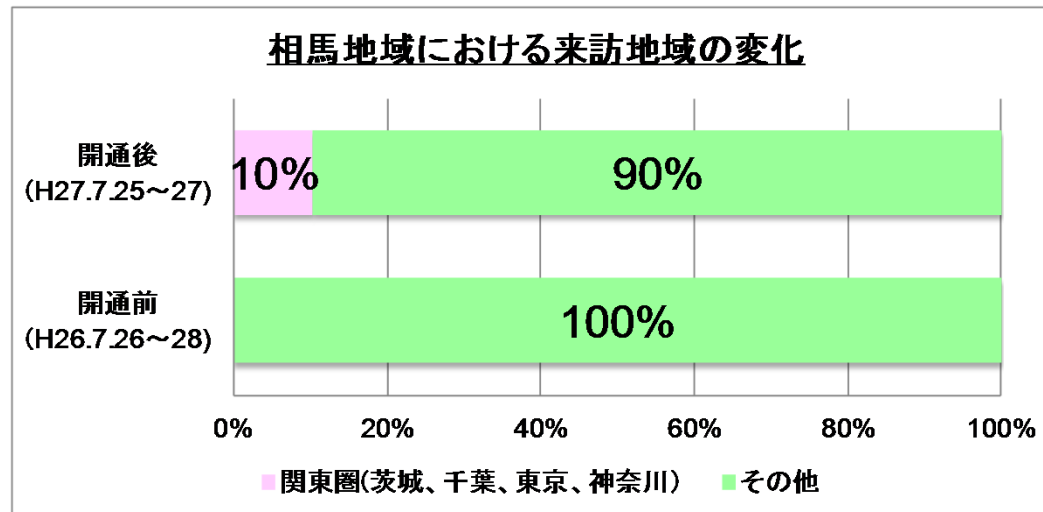
出典：福島県企業立地課
 宮城県産業立地推進課
 ※企業立地年は、土地取得時の操業予定年を示す

3. 常磐自動車道全線開通後の整備効果(全線開通6ヶ月後)③

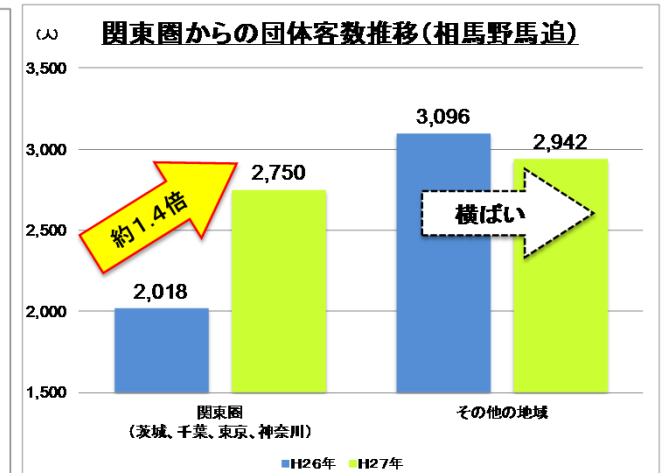
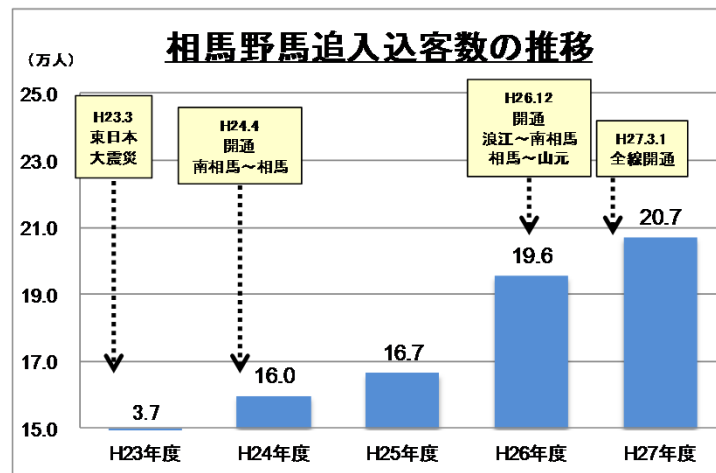
～ 地域の伝統文化の活性化に寄与 ～

- 相馬地域で行われている相馬野馬追では、震災以降はじめて観光入込客数が20万人を突破
- 関東圏※からの団体客が大幅に増加(約1.4倍)
- 地域伝統文化の活性化に大きく寄与

※茨城、千葉、東京、神奈川



※常磐道利用者の割合を集計
出典: 携帯カーナビプローブデータ



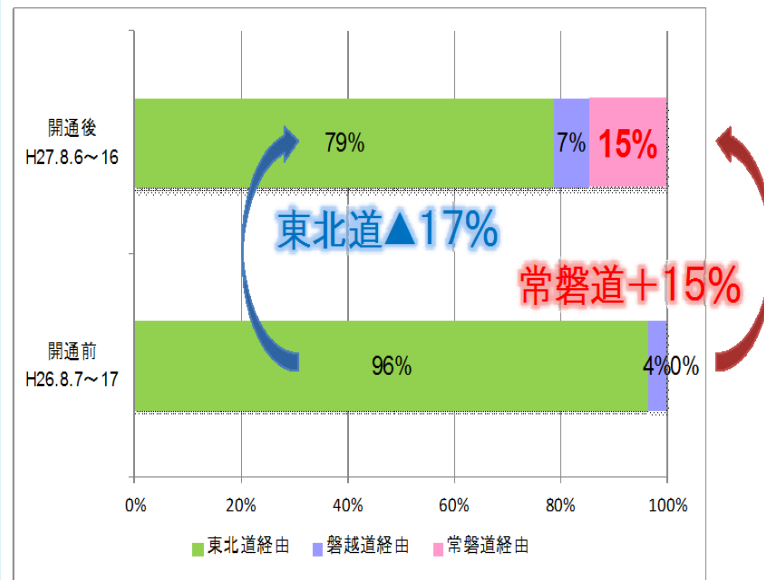
3. 常磐自動車道全線開通後の整備効果(全線開通6ヶ月後)④

～ 混雑する東北道から常磐道へ、ダブルネットワーク機能を発揮 ～

- 常磐道の全線開通により例年交通渋滞が著しい東北道の渋滞が減少
(昨年と比較し、福島県内の10km以上の渋滞が4回減少)
- 関東方面と仙台以北との利用が東北道から常磐道にシフト、昨年と比べ常磐道利用が15%増加
- 常磐道の全線開通は、東北道の渋滞緩和に大きく寄与し、ダブルネットワークとして機能を発揮



関東⇄東北 利用路線の変化



出典:プローブデータ

【トピックス】お盆渋滞の東北道を回避するため高速バスが常磐道を代替路として活用

- 交通混雑期には東北道の渋滞に巻き込まれ、定時性を確保することが困難(最大3.5時間の遅れ)
- 常磐道が全線開通した今年、一部の便が常磐道に迂回運行を行い定時性を確保



4. 事業中箇所を進捗状況

■追加IC

(※)印のIC・JCT名称は仮称

箇所名	供用予定	担当事務所	現在の進捗状況
大熊(※)	H30年度	いわき工事事務所	工事発注手続き中
双葉(※)	H31年度	いわき工事事務所	工事発注手続き中
いわき小名浜(※)	平成33年度	いわき工事事務所	橋梁設計中

■スマートIC

箇所名	供用予定	担当事務所	現在の進捗状況
郡山中央(※)	H28年度	郡山管理事務所	工事発注手続き中
田村中央(※)	H30年度	郡山管理事務所	設計、用地交渉中
ならは(※)	H30年度	いわき工事事務所	設計、用地交渉中

■追加JCT

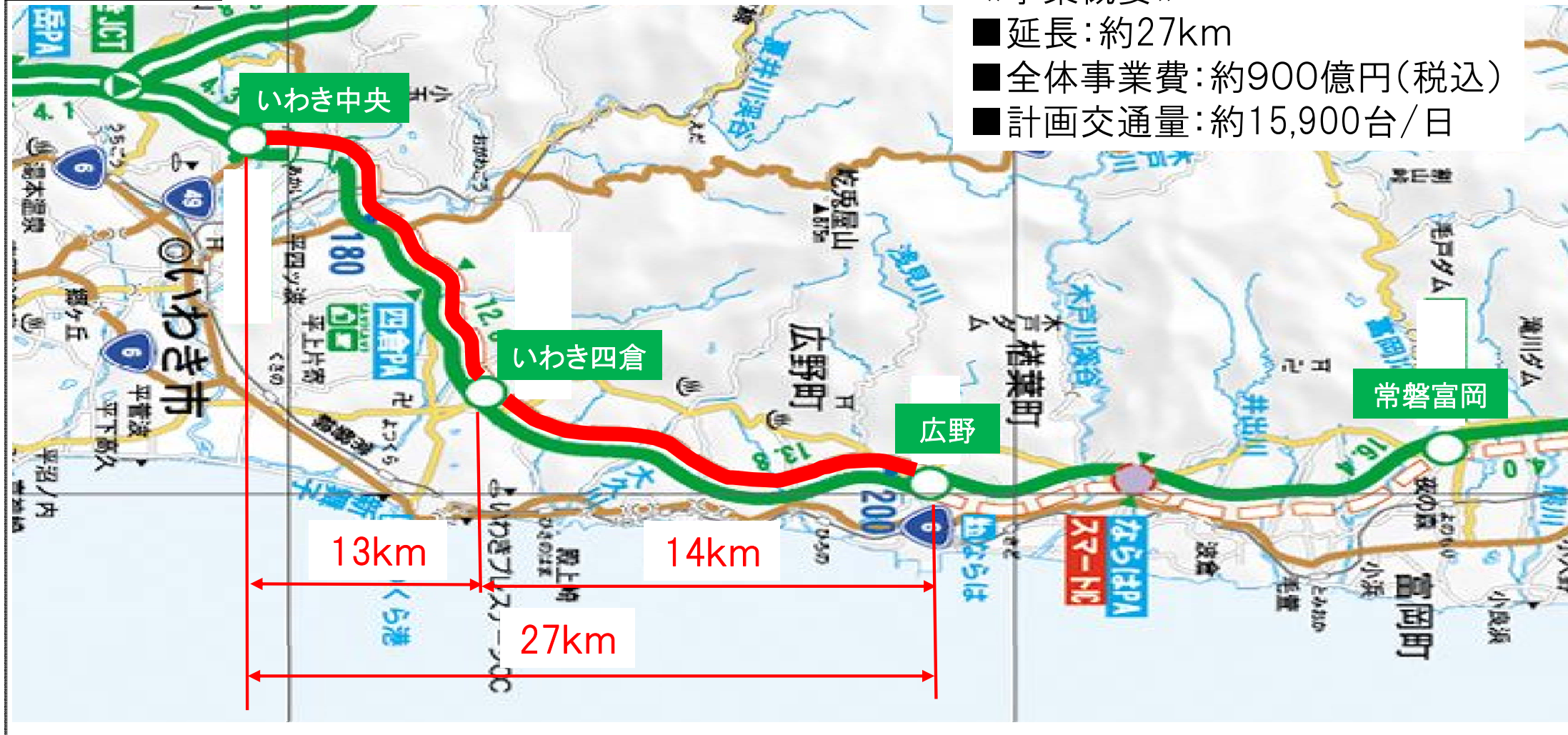
箇所名	供用予定	担当事務所	現在の進捗状況
福島	H28年度 『秋の行楽シーズン前までに開通』	福島管理事務所	舗装、施設工事中
福島北(※)	H32年度までの開通する見通し	福島管理事務所	設計、用地交渉中

■4車線化

箇所名	供用予定	担当事務所	現在の進捗状況
いわき中央IC～ 広野IC	復興・創生期間内の完成を目指す	いわき工事事務所	測量・調査業務発注手続き中

5. 常磐自動車道4車線化（いわき中央IC～広野IC間）

【位置図】



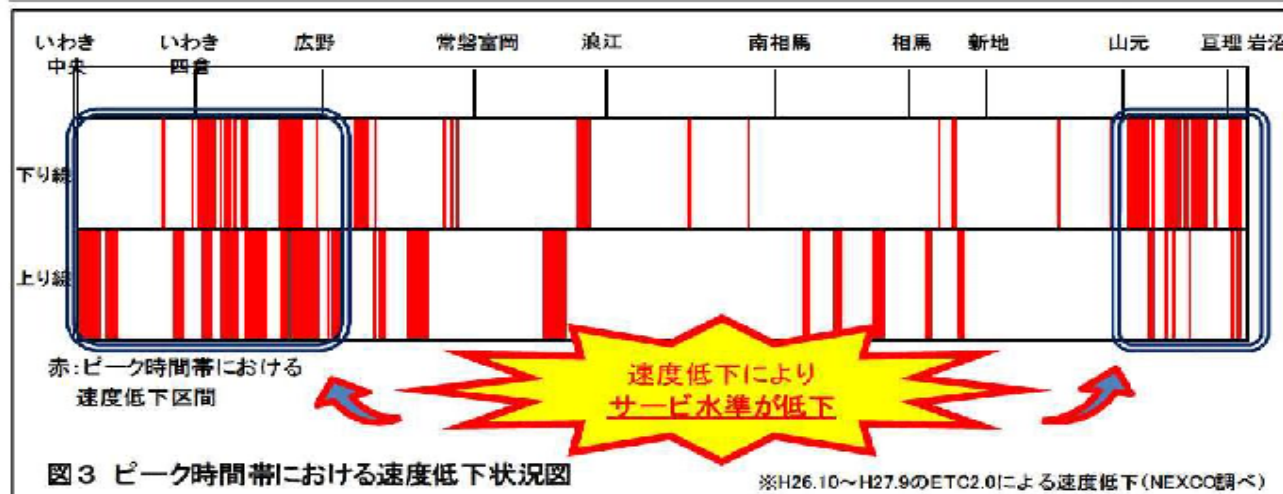
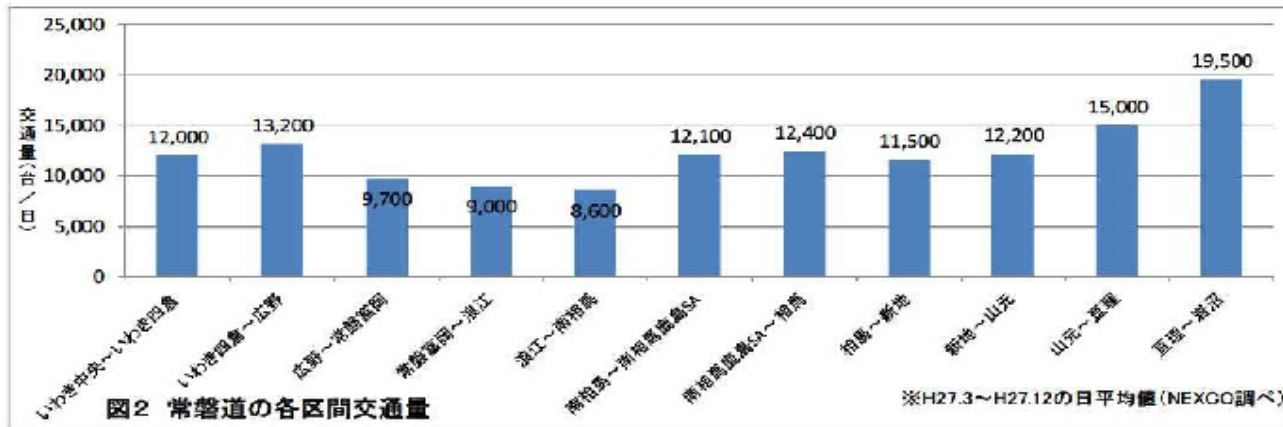
《事業概要》

- 延長: 約27km
- 全体事業費: 約900億円(税込)
- 計画交通量: 約15,900台/日

5. 常磐自動車道4車線化（いわき中央IC～広野IC間）

道路交通上の課題

- 交通集中等によるサービス水準の低下
 - ・常磐道の全線開通により交通量が増大し、暫定2車線区間では最大で約2万台の交通量(図2)
 - ・暫定2車線区間では、交通集中時や上り坂、サグ部、合流部等で速度低下が見られる状況であり、サービス水準が低下(図3)
 - ・復興事業の本格化に伴い、並行する国道6号の慢性的な渋滞が発生



[要望活動 補足資料]

復興支援道路 (国道115号)

相馬福島道路の早期開通

『相馬の声を届けよう』



開通目標に遅れることなく一日も早い開通を!!

[高速道路建設促進相馬協議会]

【相馬地方は困っています】

国道115号の線形不良、事故多発、災害通行規制、度重なる通行止め



- 国道115号は相馬市と福島市を結ぶ重要な路線ですが、**線形不良区間が多く、事故が多発**しています。
- 大型車両の通行が困難**な状況であり、海上コンテナ車両等が通行できません。
(相馬市側 R=25m、最急勾配8.4%)
- 豪雨、土砂災害**などの通行規制区間があり、**通行止めが多く、冬季の降雪時はスタック車両**などにより国道が利用出来なくなってしまう。(災害等で過去10年で15回の通行止め、冬期間においては、H27で2回/年通行止め)
- 国道115号が通行止めになると**相馬市玉野地区の集落が孤立**してしまいます。

▼線形不良箇所R=25m(最急勾配8.4%)



▼交通事故発生等による通行止め



▼落石災害発生(H18)約1ヶ月全止



▼緊急輸送道路としての利用



【相馬福島道路の活用(暮らし:利便性向上・人口流出低減)】

相馬～福島間の通行規制・通行障害の解消と、 地域住民が安全に安心して暮らせる生活環境を確保

- 相馬市街地から、山地部の相馬市玉野地区を経て、福島市方面への通行車両の定時制、安全性が向上し、買い物や通院、救急医療など、生活の利便性が向上します。
- 相馬～福島間の、通勤や通学可能範囲が拡大し、人口流出が低減され、就業機会も増加します。
- 通行規制などで、相馬市街地への通路が遮断されていた相馬市玉野地区の孤立が回避され、生活の安全・安心が確保されます。



(相馬市区長会)

玉野地区
第4行政区長
伊藤 一郎



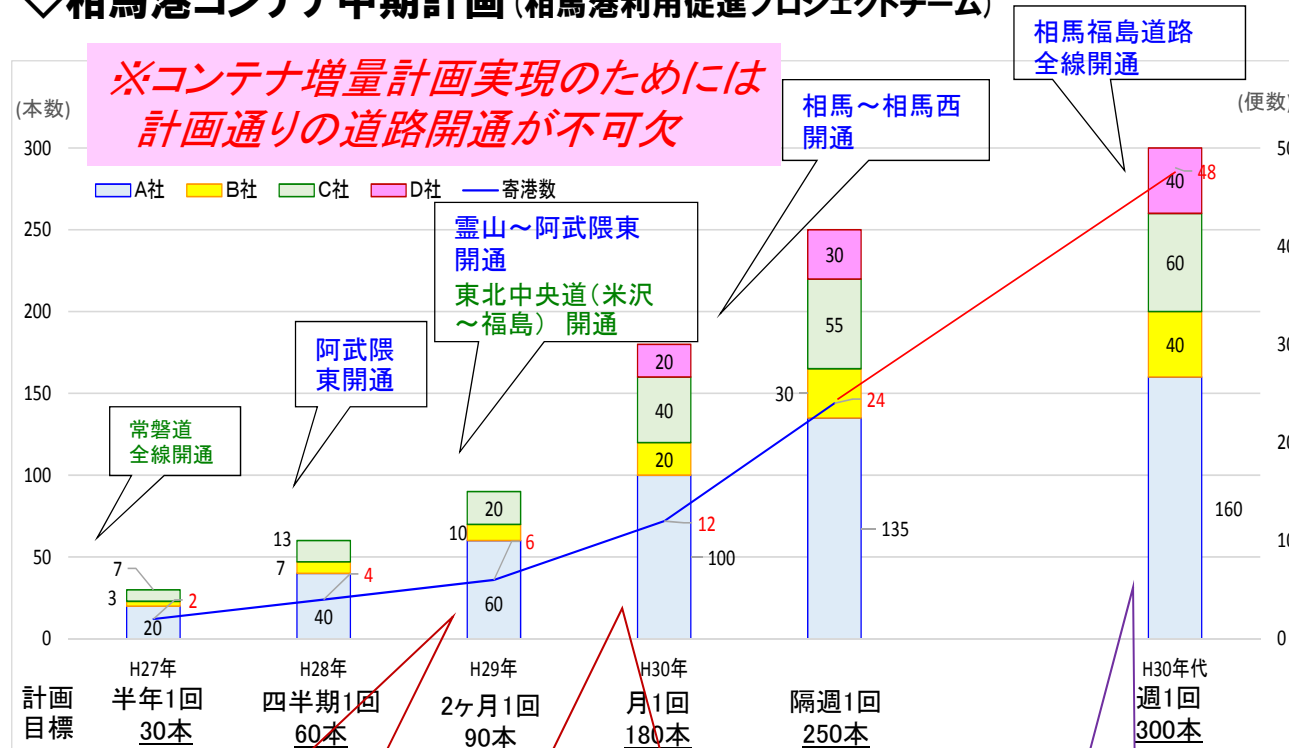
- ・玉野地区住民は、相馬市街地へ通勤・通学し、病院や福祉施設にも通っています。
- ・豪雨時や豪雪時などは、国道115号が通行止めとなることが多く、相馬市街地と行き来することができなくなり集落が孤立することがあります。
- ・相馬福島道路が開通すると、通勤や買い物などの生活が便利になり、家族が安心して地元で暮らせるようになるため、一日も早い開通を望みます。

【相馬福島道路の活用(産業振興:港湾の利用促進)】

(重要港湾)相馬港からの物流圏域を拡大し、相馬港の利用を促進します

- 線形不良や幅員狭小の解消により、福島内陸及び山形県内陸部からの相馬港を利用したコンテナによる物流ルートが確保され相馬港の利用が促進します。
- 現在の石炭取扱いに加えて、海上コンテナの取り扱いが大幅に増加し、南東北の海の玄関口として物流拠点となり物流の効率化が促進されます。

◇相馬港コンテナ中期計画 (相馬港利用促進プロジェクトチーム)



・相馬共同自家発開発
H29年12月操業開始予定
石炭火力発電
(石炭、バイオマス)

・石油資源開発H30年3月操業開始予定
LNG受入基地(天然ガス)
・オリックスH30年操業開始予定
石炭火力発電(石炭、バイオマス)

・コンテナ航路
開設時目標
週1便@7本

(福島県相馬港利用促進協議会)
日本通運(株)相馬海運支店
支店長 佐藤 正一
相馬港湾運送(株)
代表取締役 立谷 幸雄

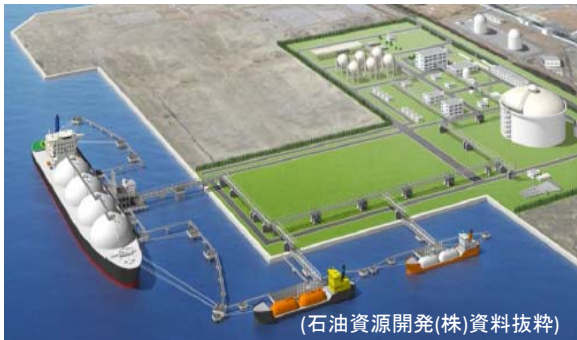
- ・H27年度は、不定期航路になる前と同等の取扱量30本/年への復活を目指し、荷主企業に対し、助成制度のほか道路整備状況や開通予定を紹介することで、今まで以上に効果的なポートセールが可能となり、新たな利用企業の発掘を進めます。
- ・H30年LNG基地操業開始により天然ガスや冷熱を利用した企業誘致や相馬福島道路の開通に伴う新たな企業の利用が期待されます。
- ・相馬福島道路の全線開通後のH30年代には、更なる相馬港利用企業の増加を見込み、コンテナ航路開設時目標である週1便及び取扱本数300本/年を目指しており、計画通りに、一日も早く開通するよう期待しています。

【相馬福島道路の活用(産業振興:企業誘致・流通・雇用)】

相馬の地場産品や工場製品の流通エリアを拡大し、企業参入を促進

- 相馬中核工業団地などへの企業誘致を積極的に進め、雇用を促進します。
- 液化天然ガス燃料基地、再生可能エネルギー技術の活用などにより、新たな産業の創生を図り、相馬地域の産業・経済の再生を目指します。
- 相馬地方の地場産品や工業製品の出荷・流通エリアの拡大や、営業エリアの拡大が可能となり、企業の増加や地元企業の売上が向上し、従業員の所得向上等が期待できます。

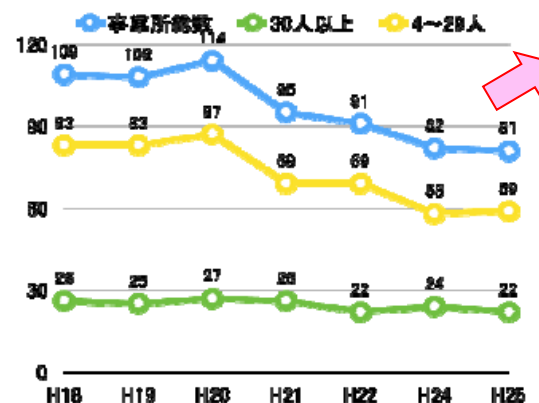
[相馬LNG基地完成予想図]



[建設予定地:相馬港4号埠頭地区]

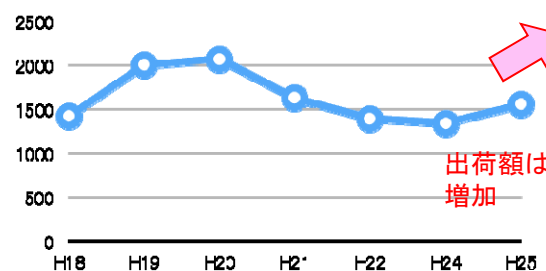


◇相馬市の事業所数



※震災後に、17の企業が工場増設もしくは新設を行い、操業を開始しています。さらに、企業誘致・新規参入を進めます

◇相馬市の工業製品出荷額(億円)



出荷額は増加

(相馬中核工業団地企業誘致促進協議会) 会長



相馬商工会議所 会頭 新妻 良一

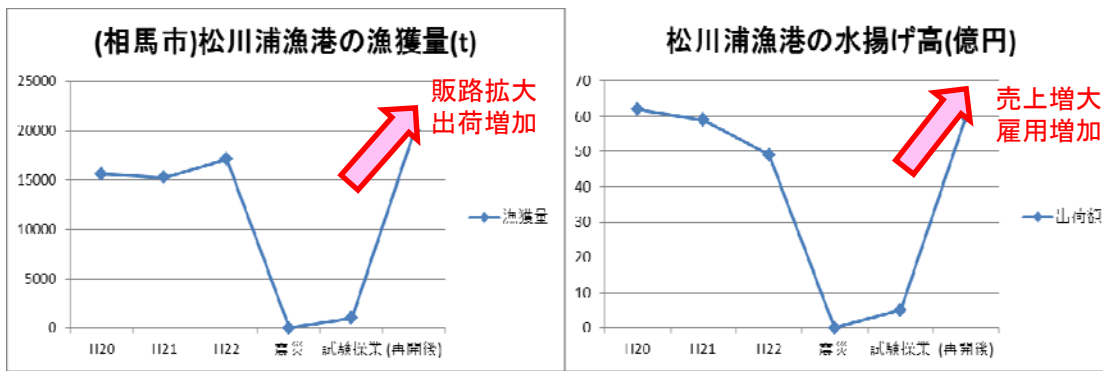
- ・平成30年3月に操業開始する相馬LNG基地の進出と併せて、関連企業の誘致を促進していきます。
- ・相馬福島道路の開通は、相馬中核工業団地への企業誘致や相馬地方の地場産品、工業製品の出荷・流通エリアの拡大や、営業エリアの拡大が可能となり、新規企業の参入、企業の設備投資の増加、販売額の増加、従業員の所得向上、雇用の促進等が見込まれ、相馬地域の地方創生に大きく寄与するものと期待しているところであり、一日も早い開通を望みます。

H30相馬LNG操業開始、企業誘致に相馬福島道路の開通が不可欠

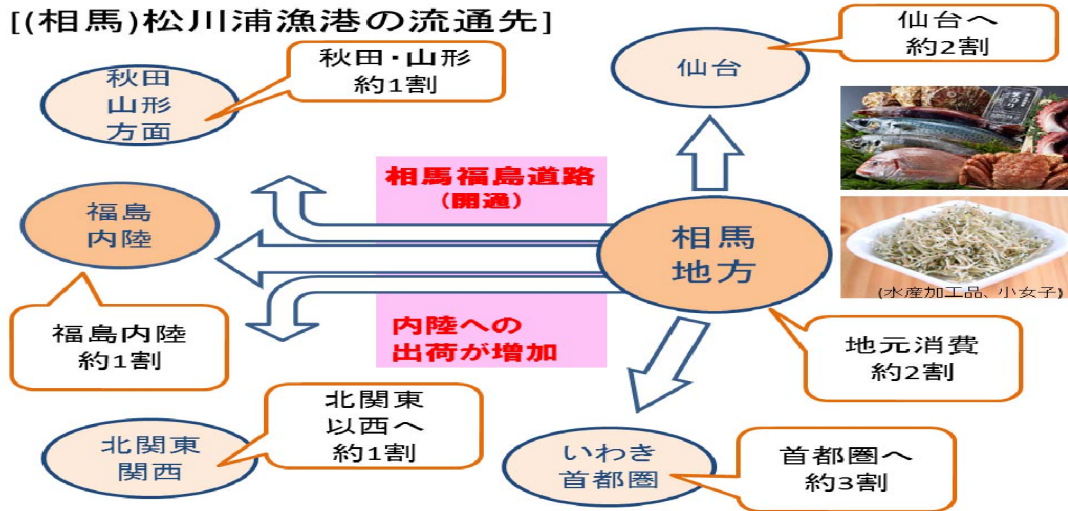
【相馬福島道路の活用(産業振興:漁業)】

相馬地方の地場産業である漁業の復活・再生と販路拡大を促進

- 津波災害や原発事故による漁獲制限、風評被害により、福島県浜通りの漁業は壊滅的なダメージを受けましたが福島随一の近海水揚げを誇る相馬地方の漁業を復活・再生させます。
- 消費地域の拡大による漁獲量の増加と、加工産業等販売エリアの拡大により、漁業従事者の雇用環境の改善と後継者の育成を促進します。



[(相馬)松川浦漁港の流通先]



相馬双葉漁業 協同組合

代表理事(組合長)
佐藤 弘行



- ・現在は試験操業中ですが、震災前、相馬市松川浦漁港の鮮魚の消費割合は、地場消費が約2割で、相馬市外への出荷が約8割です。北は仙台方面、南はいわき、首都圏方面、一部福島県内陸部や山形方面にも出荷しておりました。
- ・常磐道の全線開通により首都圏への出荷量の増加が見込まれていますが、**相馬福島道路が開通すれば**、これまで以上に、**トラック輸送が容易となるため**、**福島県内陸部や山形方面、関東方面への販路拡大が見込まれ**、**本操業に移行した際の出荷に大きく弾みがつくもの**であり、本操業開始前の早期開通を期待しているところです。

※本操業の開始前には、相馬福島道路の開通が不可欠

【相馬福島道路の活用(産業振興:漁業)】

平成28年1月末、磯部地区に水産加工施設が完成。操業を開始。

- 相馬双葉漁業協同組合と仲買業者、水産加工業者が結集し、地元水産物の加工、流通を復活させるため、事業協同組合を設立。
- 地域を挙げた新しい水産加工流通システムの構築により、震災以前の姿を取り戻すだけでなく、安全の管理と、鮮度・品質の向上に取り組み、当該道路を活用した販路の拡大を目指します。



●加工機器 煮釜・乾燥機等



●放射能検査器による全品検査



・左上 しらす干し
・上 ボイルホッキ貝
・左 ボイルつぶ貝
・右 小女子販売



相馬市磯部地区 水産物流通加工業 協同組合



理事長 島 寿雄

・相馬地方の漁業は、東日本大震災により壊滅的な被害を受けました。とりわけ、ここ磯部地区は加工施設も多くありましたが、ほとんどの施設が流出してしまいました。当組合は、そのような中で以前この地区で盛んだった水産物加工を復興させるために設立しました。しかし、震災から5年経過した今でも原発事故による放射性物質の海洋流出し、**水揚げされた魚介類の安全性が確認されている今もなお、風評が根強く残り、完全に拭い去ることはできておりません。**

私たちは、水揚げから、加工・流通まで一人ひとりが責任を負い、「絶対に安全な商品しか出荷しない」という**強い信念**を抱いて、福島県内はもとより全国へ**復興を応援いただいた皆様に対する恩返しをしたいと決意**しております。

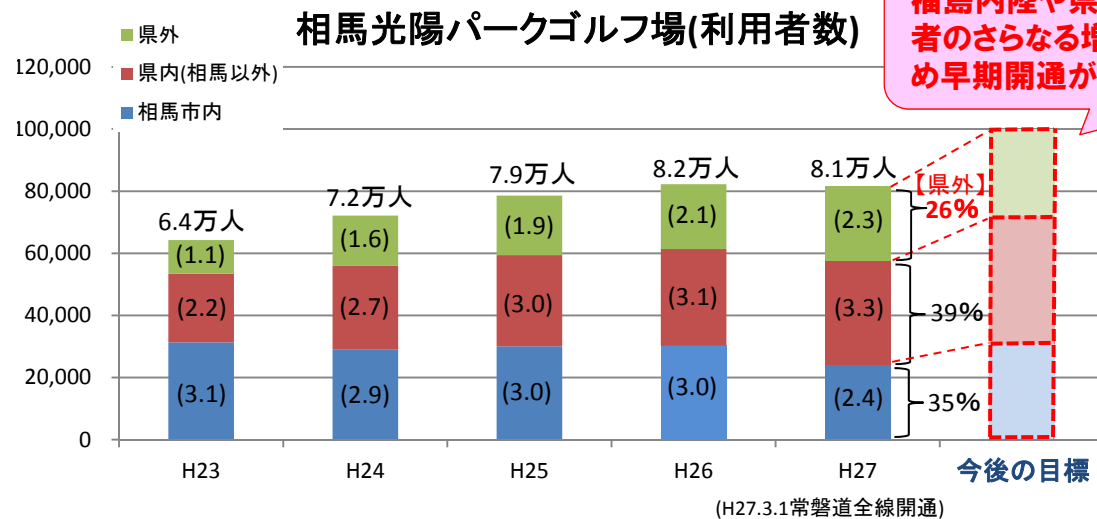
この私たち組合員の思いを成し遂げるためには、やはり、相馬・福島道路の早期整備が販路拡大に必要な不可欠な存在であり、強く切望するものです。

※操業開始した今、相馬福島道路の早期開通が不可欠

【相馬福島道路の活用(観光振興)】

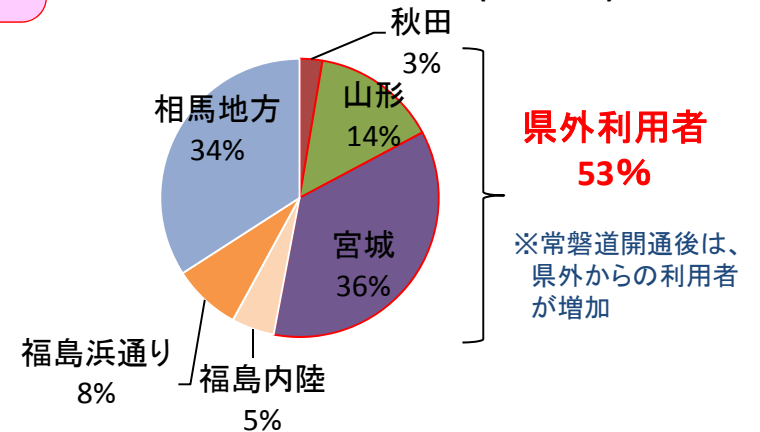
東日本大震災により被災した、名勝松川浦の再生と、 スポーツ観光振興により、相馬地方の創生を目指す

- 美しい自然と温暖な気候に恵まれた相馬地方は、松川浦県立自然公園や相馬野馬追や相馬民謡など豊富な観光資源があり、観光窓口として、「相馬観光復興御案内処」を設置し、観光情報の提供や宿泊所の調整などワンストップサービスで提供するなど、観光振興を促進します。
- 相馬市ではスポーツ交流人口の拡大を目指した取り組みを促進しており、パークゴルフ場、サッカー場、ソフトボール場、全天候型の相馬こどもドームなどの施設を整え、各種大会や合宿等のイベントを企画して、交流人口の拡大を促進します。



福島内陸や県外利用者のさらなる増加のため早期開通が必要

常磐道全線開通記念パークゴルフ大会
参加者(約300名)地域別 (H28.3.12)



(相馬市スポーツ交流
促進協議会)
NPO法人
光陽パークゴルフ
専務理事
門馬 善治郎



- ・パークゴルフ場の利用者は、常磐道の開通などによって、県外からの利用者が増えつつあります。
- ・さらに、相馬福島道路の開通により、福島内陸や山形・北陸方面などの県外の利用者の増加を見込んでいるため早期の開通を望みます。
- ・各種大会参加者や、冬季の利用者確保のため、様々なイベントを企画して、スポーツ交流を促進し相馬地方の観光振興を進めていきます。

被災地の復興を支援し、「地方創生」に資する
復興支援道路『相馬福島道路』については
確実に整備を促進し、一日も早い開通を図ること

大型車のすれ違いが困難



積雪により道路幅員がさらに狭小



急勾配・急カーブの連続で事故多発



スタック車両等による頻繁な通行止め



伊達氏発祥の地「伊達市」の観光飛躍への道

伊達800年ものがたり ~すべては伊達から始まった~

資料6-2
【伊達市】

伊達市PRアニメ「政宗ダテニクル」活用した地域の魅力を発信
「4つのICから巡る歴史観光の旅」の推進

東北道・常磐道からのアクセス拡大⇒アニメツーリズム等の展開
⇒観光交流人口の拡大⇒消費の拡大⇒新たな事業展開

17代政宗戦勝祈願の地



梁川八幡神社



梁川城跡心字の池

宮脇遺跡

観光交流

霊山神社

北畠顕家生誕700年

南朝の拠点霊山城跡

【イメージパース(案)】

観光物産の拠点・道の駅



保原総合公園



伊達地方の宝「旧亀岡家住宅」

高子岡城跡



伊達氏発祥の地

大枝城跡

歴史と文化のまちづくり
歴史を活用した地域創生

霊山高原構想

観光交流

伊達市PRアニメの製作



政宗ダテニクル



経済の好循環・地域の活性化のためには相馬福島道路の早期整備が必要！ (仮称)国道4号IC周辺土地利用検討【桑折町】

- ◆ 相馬福島道路による広域的な連携の促進及び(仮称)国道4号ICの効果を最大限に活かした土地利用により、復興支援拠点としての機能を目指していく
- ◆ 国道4号の西側沿線地区について、沿道土地利用の促進を図るため、空港や港湾と有機的に結合可能な流通業務地としての検討を進め、雇用の創出・人口の流入等、復興から創生へと繋げていく

桑折高架橋完成予想図



- ◎相馬港や仙台空港に直結する高次元物流基盤の確立による南東北エリアの物流連携の拡大
- ◎献上桃をはじめとする地元特産物の販路拡大を推進

桑折高架橋着工式 (H28.5.16)
川瀧東北地方整備局長と桑折町長による
施工開始号令



桑折工業団地



- ◎流通拠点としての工業団地との連絡や産業面の活性化
- ◎駅前公有地を中心とした市街地の土地利用との相乗効果

桑折駅前団地



福島市の雇用と活性化には復興支援道路の早期整備が必要！！

福島市内の地場企業・誘致企業へアンケート調査

(調査期間:平成27年10~11月 回答企業:64社)

→ 相馬港を利用したい、又は利用を検討したい:12%

(現在利用:1社 ⇒ 開通後に利用を検討:8社)

→ 相馬福島道路の無料化を、知っている:37%



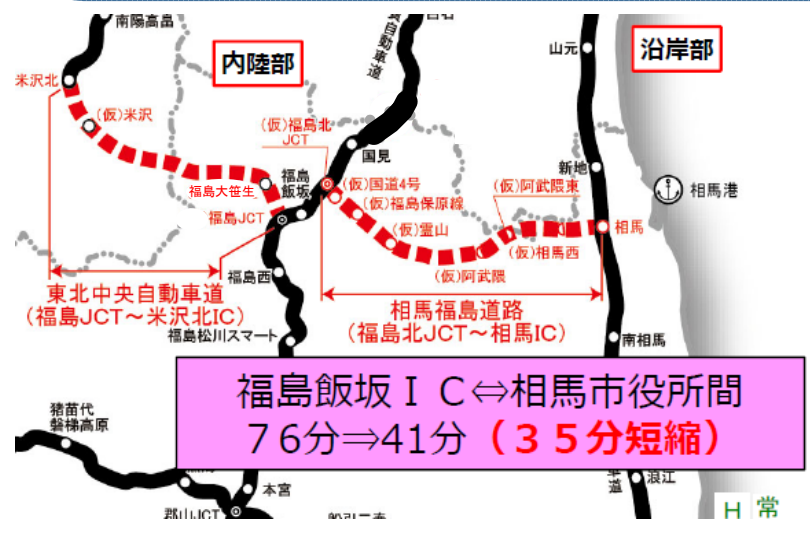
復興支援道路事業、通行料無料の積極的なPRが、必要である！

さらには

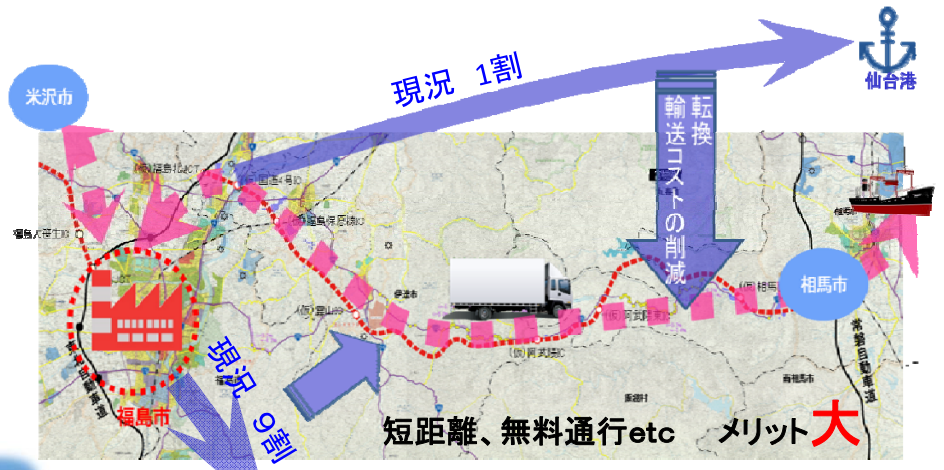
今年度秋に、東北中央道(福島JCT~福島大笹生IC間)が開通予定
平成29年度中に、東北中央道(福島大笹生IC~米沢北IC間)が開通予定
東北中央道との連携により、南東北地域の経済活動に大きく寄与することが見込まれる！

各企業から期待の声！

- ・輸送時間の短縮
- ・コストダウン
- ・安全運航
- ・環境負荷軽減 等



福島⇔相馬間の物流改革！！



物流の拠点が周辺地域の雇用と活性化に繋がる！

(国土交通省 図面使用)